



社会福祉法人 ひとつの会

令和6年度 事業報告

ひとつの会 事業推進本部

【事業基本方針】

1. 法人基本理念： 人の為に走れ

2. 法人運営目標

【利用者・家族の為に】

支援を必要とするすべての人の期待や要望を的確に把握し、自立した笑いの絶えない生活の場の実現を目指す。

【職員の為に】

職員は、すべての面において働き甲斐のある職場環境の構築と、職員や家族が心から利用したい法人になることを目指す。

【地域の為に】

地域の福祉拠点として情報を発信し、ふれあいを大切にしながら、地域への参加受け入れを行い地域福祉の発展に貢献する。

3. 法人運営方針

【利用者・家族の為に】

- ・質の高いサービス提供により、安全・安心のサービスを追求する。
- ・個人の自主性を尊重し、家族の意見も取り入れた利用者本位のサービスを推進する。
- ・相互理解と説明同意により、納得のサービスを推進する。

【職員の為に】

- ・チームワーク重視と資質向上への支援をし、安心して仕事のできる職場にする。
- ・健全な運営と公平な評価により、働き甲斐のある職場にする。

【地域の為に】

- ・親切、丁寧、即対応により、信頼サービスを追求する。
- ・関係機関と連携を密にして地域福祉の推進と向上に努める。

【具体的事業報告】

4. 理事会・評議員会の開催

【理事会】 3回

- ・令和6年5月23日開催
 - 議案第一号 令和5年度 事業報告(案)の承認について
 - 議案第二号 令和5年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について
 - 議案第三号 理事長 理事報酬の改定(案)について
 - 議案第四号 諸規定の改定(案)について
 - 議案第五号 評議員会の招集(案)について
 - 報告第一号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
 - 報告第二号 福祉充実残高について
- ・令和6年11月14日開催
 - 報告第一号 令和6年度資金収支中間報告について
 - 報告第二号 令和6年度上期 入退職状況について
 - 報告第三号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
- ・令和7年3月8日開催
 - 議案第一号 令和6年度 資金収支中間報告及び資金収支補正予算(案)の承認について
 - 議案第二号 令和7年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について
 - 議案第三号 評議員任期満了に伴う評議員選任解任委員会へ推薦する評議員候補者(案)、評議員選任解任委員の退任に伴う委員の追加選出及び委員会の招集について(案)
 - 議案第四号 評議員会の招集について
 - 報告第一号 外国人労働者の受入状況について
 - 報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第三号 山口市との災害協定について

【評議員会】 2回

・令和6年6月8日

議案第一号 令和5年度 事業報告(案)の承認について

議案第二号 令和5年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について

議案第三号 理事長 理事報酬の改定(案)について

報告第一号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第二号 福祉充実残高について

報告第三号 令和5年度 拠点別ヒヤリハット・事故報告

・令和7年3月22日

議案第一号 令和6年度 資金収支中間報告及び資金収支二次補正予算(案)の承認について

議案第二号 令和7年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について

報告第一号 外国人労働者の受入状況について

報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第三号 評議員任期満了に伴う評議員選任解任委員会へ推薦する評議員候補者及び評議員選任解任委員会任期満了に伴う委員選出について

報告第四号 山口市との災害協定について

5. 監査の実施

【決算監査】 1回 令和6年5月20日(火) 午後4時～午後5時

堀越政美監事、久保田克秀監事、2名により、令和5年度法人並びに施設の事業報告、決算書並びに理事の業務執行の状況及び財産の状況について、社会福祉法第40条及び関係法令に基づき監査が、社会福祉法人ひとつの会 事業推進本部にて実施された。

監査の結果、法人並びに施設の事業報告、決算報告、決算付属明細表、財産目録等いずれも適正であることが承認された。

【令和6年度の状況・評価】

6. 事業運営

令和6年度は、赤字決算となった。

要因の一つとして、処遇改善加算に伴う配分方法の見直しにより、前年度及び当年度の二重計上となったことが挙げられるが、これは、本来のあるべき会計処理になった結果であったと思われる。そのほかの要因として、在宅部門を中心とした運営状況の悪化である。施設系、特に特養等については、安定した稼働率となっているが、グループホームの稼働率が前年比で減少している。待機者数も確保できていないため、定員を割り込む事業所が目立った。在宅部門は、デイサービス2事業所の赤字、ヘルパー事業所の収入減など、収支予算を割り込む結果となった。

ICT関連の導入については、今年度も、見守り機器、インカムなど、補助金を活用しながら導入することができた。しかし、通信機器の増加によるインフラ整備が間に合っておらず、通信が不安定、断線等が散発しており、作業効率を落とす結果となっている。

事業費・事務費の見直しについては、昨今の物価高、円高等の影響により、見直しどころか、費用増の結果となってしまった。食材料費、光熱水費、物品や契約金額の値上げ等々、この流れは、次年度以降も続くため、対策を講じていきたい。

7. 人材確保等

職員の入退職状況については、報告書を参考にさせていただきたいが、今年度も厳しい状況となっている。特に採用については、ハローワーク（公共職業安定所）の応募が壊滅的に減少してきており、職員紹介制度の併用だけでは人員確保ができない状態となった。その埋め合わせとしてスカウト型転職サイト4社で採用活動を行い、何とかやりくりができている状態である。ただしスカウト型転職サイトの採用手数料は人材紹介会社に比べれば半額以下だが、年度後半ではその手数料が馬鹿にできない金額となってきた。そのため広告型と呼ばれるWeb型求人広告を実質5月から稼働させ、その応募で少しでもスカウト型転職サイトの比率を下げる施策に取り組んでいる。導入期間が短いためまだ結果が出ていないが期待したいところである。

外国人雇用については、技能実習生が令和6年度4事業所各2名の計8名、また特定技能制度で3事業所各2名の計6名が入国、入職した。雇用してわかったことだが、特定技能の外国人は母国で日本語だけでなく介護技術も学んでおり、総じて技能実習生より実力、意欲とも高い。技能実習制度が廃止され育成就労制度へ移行するが、ひとつの会では特定技能の外国人を中心に今後雇用していきたいと考えている。

8. 地域連携

各地域における活動は、コロナ禍以前の日常に戻ってきたように思える。防府地域におけるコミュニティ活動の送迎業務、防府、宇部事業所を中心とした介護者教室、認知症啓発事業の取り組み等は、滞りなく協力することができた。運営主体の事業者の努力もあり、参加者は集まっているものの、その人数は減少傾向であった。

計画していた地域との連携強化、新たな連携先の獲得など、その取り組みについては、日常業務とのバランスにより、うまく取り組むことができなかった。また、新たな広報の枠組みについてもホームページ、SNS等の活用は、ごく一部での運用となり、法人全体での取り組みとすることができなかった。特に、SNS等の活用については、専門性の高い領域のため、今後、人材を含め改革が必要であると感じた。

事業推進本部のみならず、拠点、事業所とも連携を図りながら、社会福祉法人としての地域貢献を実施するため、途切れることのないように、新たな体制づくりを模索する必要がある。

9. 法人 行事報告 (案)

月	施設長会議・全体会議実施項目	その他 法人行事 (備考)
4	4/23 令和 6 年度事業計画発表 4/30 施設長会議	4/1 新入職員入職式・研修 (～4/2) 4/9 新入職員合同研修
5	5/21 研修会 (食中毒予防) 5/28 施設長会議	5/20 監事監査 5/23 第 1 回 理事会 (決算・事業実績報告)
6	6/28 令和 5 年度事業報告 1 回目 6/28 施設長会議	6/8 第 1 回 評議員会 (決算・事業実績報告) ストレスチェック (法人全体)
7	7/23 令和 5 年度事業報告 2 回目 7/30 施設長会議	職員健康診断 (夜勤・宿直勤務職員)
8	8/27 施設長会議	
9	9/24 永年勤続表彰 理事長 創立 20 周年記念講話 9/24 施設長会議	
10	10/22 研修会 (ハラスメント対策) 10/29 施設長会議	
11	11/26 経営会議 11/26 施設長会議	11/14 第 2 回 理事会 (中間決算報告)
12	12/24 施設長会議	
1	1/7 新年互例会 創立 20 周年記念品授与 1/28 施設長会議	職員健康診断 (法人全体)
2	2/25 研修会 (口腔ケア) 2/25 施設長会議	職員健康診断 (法人全体)
3	3/25 令和 6 年度研究発表 (小鯖特養・小鯖小多機・トイロ) 3/25 施設長会議	3/8 第 3 回 理事会 3/22 第 2 回 評議員会 (補正予算案・予算案・事業計画案) 職員健康診断 (法人全体)

ケアハウス あいおい苑

【事業基本方針】

入居者の生活を大切にし、安心して普通の生活が送れるような生活空間・人間関係の構築を目指す。

【目的】

利用者一人一人の“生活”を大切にし、当たり前前が当たり前前でき、利用者が苑で快適に普通の生活が送れるように環境を整え、適切で質の高いサービスを提供する。

疾病や障害があっても、利用者様や御家族の意向を尊重しながら、苑での生活を希望される限り、安心・安全・安楽に配慮し援助する。

【入居者の状況報告】

入所者… 15名、退所者… 15名

【具体的事業報告】

・介護～

1. “生活”という視点を持ち、共に“生活”する・共に“楽しむ”ことに努めた。

自分が生活したいと思える環境作りを行う上で、少しでも苑生活が楽しく過ごせる様に、入居者のニーズにあった取り組みを勧めてきた。コロナ禍で外出もほとんど出来なかったが施設内で出来る事を考え行った。また、家庭的な雰囲気を感じてもらえる様に心がけた。

その主な活動として、次の事を行った。

- ・入居者の誕生日には誕生日会を開き、喜んでもらえるようその方の食べたい物を作り、皆でお祝いをした。
- ・苑の畑で採れる野菜を使ってユニットで調理し皆でいただいた。また、ユニットでも入居者様と一緒に野菜を育て収穫し料理した。
- ・安全で楽しく食事出来るよう、食事前に嚥下体操を実施した。
- ・ユニットでの行事を企画し、実施した。（料理・カラオケ・ゲーム等）
- ・1週間に1度喫茶を開催した。

2. コロナ禍だが、家族や地域との繋がりを維持し、少しでも深められるよう支援した。

今年度もコロナ禍で毎年行っていた家族交流会や夏祭りが行えなかった。しかし、地域との繋がりで保育園児の慰問は今年も行う事ができ、入居者様が元気をもらいとても喜ばれた。

面会に関しては、決められた場所で距離をとり、限られた時間での面会となり、入居者や

ご家族には寂しい思いをさせてしまったが、顔を見て話をすることが出来たので安心はしてもらえたと思う。

3. 利用者の生活を最後まで支援できる体制作りに努めた。

看取りについて介護職・看護職・その他の専門職が連携し、最後までその人らしい生活を送っていただけるように次のような支援を行った。

- ・看取りの生活を最優先し、安心して生活を送れるよう支援した。
- ・利用者・家族の意思を尊重したケアを行った。
- ・利用者の疼痛緩和に努め、併せて精神的痛みへのアプローチも行った。
- ・最後までその人らしく生きる事ができるよう職員一人ひとりが考え、ケアにあたった。
- ・家族へこまめな情報提供や現状報告を行い、信頼関係の構築に努めた。

“介護・看護に関する知識や専門技術向上”として、多くの職員が参加できるよう施設内勉強会を勤務時間内にグループホームと合同で開催した。

- 4月…接遇・食中毒・業務継続計画（災害）について
- 5月…接遇・食中毒・業務継続計画（災害）について
- 6月…接遇・食中毒・業務継続計画（災害）について
- 7月…介護技術・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて
- 8月…介護技術・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて
- 9月…介護技術・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて
- 10月…認知症・業務継続計画（感染症）について
- 11月…認知症・業務継続計画（感染症）について
- 12月…認知症・業務継続計画（感染症）について
- 1月…看取り・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて
- 2月…看取り・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて
- 3月…看取り・高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて

～ 看 護 ～

【運営方法】

専門職として関係職種との連携を行い、利用者様に介護・医療のサポートを行う。
必要時、苑内看護の実施と充実および通院治療の支援を行う。介護職員に対する基本的な医療・看護技術・知識の習得および助言を行う。

（安全）

- * 利用者の健康診断の計画実施 胸部レントゲン撮影 * インフルエンザワクチン接種
- * コロナワクチン接種
- * 医療行為 * 喀痰吸引 * 胃瘻管理 * 採血 * 在宅酸素管理

* 訪問看護との連携 * 感染防止活動

(勉強会の開催)

* 感染症対策 * 看取り * 急変時の対応

(安楽)

* 利用者各々の疾患に対して適切な指導、援助 * 苦痛の緩和 * 看取りケアの実践

* カンファレンス * 情報交換 * 意向確認 * エンジェルケア * 死生観教育

(安心)

* 年間を通し昼間は最低 2 名以上の配置 * 夜間オンコール体制

* 受診介助 (のべ 433 名) * 入院介助 (11 名)

内訳 (入院・転居・死亡)
入院 11 名 誤嚥性肺炎 4 名 心不全 5 名 骨折 1 名 外傷 1 名
転居 2 名 (自宅へ)
死亡 9 名 (施設内での見取り) 入院中の死亡 3 名

ケアハウス看護の目標、『利用者や家族の意向を尊重しながら安全・安心・安楽に配慮し援助する』を日々努力してきた。

感染症に関してはコロナが 5 類に引き下げられ、マスク着用も任意となった。

ケアハウスでは、外出時受診時はマスク着用厳守とし、飲食を伴う外出は禁止とし、感染予防に取り組んだ。感染経路は不明だが、利用者の何名かはコロナ、インフルエンザに感染したが、幸いなことに重傷者、入院者はいなかった。

当苑での看取りも 9 名あり、利用者の尊厳を守り、家族の意向をくみ取り、スタッフ、苑関係者と連携し最後を看取ることができた。

年間、受診介助 (433 名) ・入院介助 (11 名) ・往診介助・インフルエンザワクチン及びコロナワクチン予防接種・内服薬管理・健康管理等、業務の中でも家族との信頼関係の構築を重視し連絡を細目に行い、疑問・心配事・不満について拝聴し、説明を行い解決するように努力した。

～ 相 談 ～

施設の窓口としての役割を担い、利用者および家族からの相談や、各種職員との連携・サポートについて、誠意をもって応じるように努めた。

* 利用者・家族・職員・関係事業所との関係構築を目的に主に以下の通り業務に努めた。

・ケアハウス・GHの病院受診補助

- ・入退院の調整
- ・入退居の調整
- ・事故・苦情相談による対応
- ・新型コロナウイルス、インフルエンザに関連する連絡、対応調整
- ・あいおい苑の入退居、空床状況を随時確認しながら、外部・他部署・関係事業所との連携を図った。
- ・居宅支援事業所や地域包括支援センター、医療機関、介護老人保健施設等へ空床状況等の情報共有

～ 機能訓練 ～

利用者の生活がより良いものになるように、それぞれのやりたいことや、できるようになりたいことを行えるよう、一人ひとりに合わせた訓練を実施できるよう努めた。また退院後の状態に合わせ、徐々に以前のような生活に戻れるよう訓練を実施していった。ユニット職員と協力し集団体操や嚥下体操、立ち上がり訓練など継続して行う事ができた。看護職員が増えたことで訓練にかかわる時間を増やすことができた。

一日平均7～8月名

- ・歩行訓練・・・32名
- ・起立着席訓練・・・43名
- ・筋力強化訓練・・・43名
- ・体操・・・ほぼ全員
- ・関節可動域運動・・・3名
- ・階段昇降・・・3名
- ・座りかえ動作訓練・・・4名
- ・マッサージ・・・2名
- ・回想、嚥下訓練を目的とした発声や会話、歌・・・ほぼ全員

【令和6年度の状況・評価】

6月・10月…風水害、8月・12月…火災想定

～ 介護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

コロナが5類になったが外出は、4月の花見だけになってしまった。施設内での行事を企画し楽しんでもらえる様に務めた。

年に1度の誕生日にはその方の好きな物を作り、皆でお祝いし喜んでもらった。また、

苑の畑で採れた野菜を使い、調理し季節を感じてもらうことはできた。

家族交流会は今年も行えず家族との信頼関係を築くことは難しかったが、制限の中での面会時や遠方の方へは電話で近況報告は行った。

コロナウイルスが5類になったとはいえ、今年もコロナ感染者が15名程度出てしまった。

保育園児の慰問は行え、利用者さんがとても喜ばれた事は良かった。

今年度は9名の看取りの方がおられた。職員一人ひとりがその方に寄り添い最後までその人らしく生活してもらえるように努めた。また、多職種・家族との情報の共有にも努めた。

今年度も毎月の勉強会を勤務時間内に行う事で非常勤職員も参加出来たことは良かった。今後も他職種と連携をとりながら、入居者により良いケアが出来るように努めていく。

～ 看 護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

今年度もコロナウイルス感染者、インフルエンザ陽性者もあり、感染対策におわれた。

改めて感染予防の大切さ、重要性、正確な手技等を再確認し、職員に伝える難しさや介護施設の職員としての自覚を全員が持つように指導する難しさも痛感した。

様々な疾患を持って入居される利用者への的確に対応し、主治医への報告の有無や急変時の速やかな判断が必要となる。

日々進化する医療に敏感に反応し、利用者個人の疾患状態に即した服薬管理が必要となる。個人、個人常用されている薬も多種多様で、ジェネリック医薬品も多いので判断も困難になる。

現在、施設での看取りが通例となり、本人家族の意識も変化しつつある。より良い終末期を迎えていただく為に利用者個人に合った看取りを考え、実施できるよう再度考える必要がある。

色々な家族関係があり、連携も難しい事も多いが、利用者の思いを尊重し、ご家族に寄り添い、満足していただけるよう努力していく。

～ 相 談 ～

令和6年度、入居については15名、退居については年間死亡退居12名、在宅復帰3名30%の入れかわりがあった。平均介護度は1.90 稼働率は年間96.2%となり前年の95.9%を上回った。今後継続して、各部署や外部事業所と連携を図りながら、スムーズな入退居に繋がるよう、取り組みたい。

また現時点の入居者(利用者)、家族が安心して頂けるよう、又、職員の業務がスムーズに対応できるよう、情報提供を施設長、介護長各ユニット、看護に確実に行き相談窓口としてサポートに努めていきたい。

～ 機能訓練 ～

8月より看護職員が4人体制となり機能訓練にかかわる時間を増やすことができました。各ユニットを順番にまわり曲に合わせた体操を実施し、楽しみにされている利用者さんも増えていくことができました。インフルエンザやコロナ対応で集団で行えないこともあった。今年度もユニット職員とも連携して継続的なリハビリを行っていく事が出来た。ユニット会議などで利用者さんの情報を共有しスタッフとも協力し機能訓練を継続して行うことができました。来年度からは機能訓練の職員が入職されることとの事で情報提供し看護とも協力して機能訓練を継続して行っていきたい。

【 令和 6 年度 目標 の 達成 状況 】

1. コロナやインフルエンザ等の感染症は油断できないが、年に数回でも季節を感じてもらおう為外出の企画を行う予定だったが、今年もコロナ感染者が十数名出てしまい外出は花見だけとなった。施設内で利用者さんに楽しんでもらえる事を考え実施できた。また、畑で採れた野菜を使って調理し、季節を感じてもらったり、食べる楽しみは味わってもらえた。
2. 少しずつだが施設外研修に参加でき、リモートでの参加やグループホームと合同の施設内研修を日中に行い全員（パートも）とはならなかったが多くの職員が参加することができた。また、専門職としての質の向上を行い、人材育成・定着に努めたが定着は厳しい。
3. 家族の面会も決められたスペースで人数や時間制限の中での面会になってしまった。今後は施設行事に参加してもらえるようにしたい。また、入居者さんの状況を面会時や電話でこまめに報告し、ご家族との信頼関係を築いていく。
4. インフルエンザ・コロナウイルス等の感染症を職員が広げない様に感染対策の徹底に努めたが、感染対策が不十分だったようでコロナウイルスは広がってしまった。
5. 空床が出た場合は、速やかに入所に繋げられるようにケアマネジャーとの連携を図り、稼働率は前年度を上回ることが出来た。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	2	2	1	1	2	2	3	4	4	4	3	3	2.6
要支援 2	4	5	4	4	4	5	5	4	3	3	3	3	3.9
要介護 1	23	23	24	24	24	24	23	23	23	24	25	25	23.8
要介護 2	5	5	5	5	4	4	4	5	6	6	4	6	4.9
要介護 3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	5.2
要介護 4	5	5	4	5	5	4	5	4	3	3	4	3	4.2
要介護 5	6	6	6	5	6	6	5	5	6	5	4	4	5.3
合計	50	51	49	49	50	50	50	50	50	50	49	50	49.8
男性	15	15	14	14	14	14	13	13	13	12	12	12	13.4
女性	35	36	35	35	36	36	37	37	37	38	37	38	36.4

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	60	62	30	31	55	60	77	120	124	124	84	93	920
要支援 2	120	135	120	124	124	149	155	120	93	93	84	93	1,410
要介護 1	690	687	708	743	744	706	698	690	709	704	689	775	8,543
要介護 2	150	155	150	155	124	120	124	150	186	186	112	175	1,787
要介護 3	150	155	150	155	155	150	155	150	155	155	149	184	1,863
要介護 4	150	142	120	140	127	120	133	96	93	93	112	93	1,419
要介護 5	150	155	136	124	155	144	124	120	146	126	112	124	1,616
合計	1,470	1,491	1,414	1,472	1,484	1,449	1,466	1,446	1,506	1,481	1,342	1,537	17,558
													月平均延べ利用者数 1,463.2
													年間稼働率 96.2%
													平均介護度 1.90

グループホーム 笑生苑

【事業基本方針】

1. 個人『らしさ』を大切に
2. 家庭的な環境づくり
3. 温かい心と尊厳の心
4. 地域との関わりを大切に
5. 笑って生活する

【目的】

1. 共助・・・『出来ない』ことへの支援
2. 共生・・・『談(団)らん』で和の時をもつ
3. 傾聴・・・『ゆっくり、ゆったり』
4. 地域交流・・・『気軽にホームに"おいでませ"』
5. 共働・・・『"信頼関係"の構築』

【入居者の状況報告】

入居者・・・7名

退居者・・・8名

男性・・・6名 女性・・・12名 計 18名

平均介護度・・・(右田) 2.4 (佐野) 1.9 (笑生苑全体) 2.07

【具体的事業報告】

- ・玄関先での面会やシーツ類の洗濯物受け渡しの際やご家族同伴の受診時に生活の様子を伝え、ご家族からも生活の中で不安に思われている事、意見を聞くことで信頼関係の構築に努めた。体調の変化があった際には随時状況報告をしている。
- ・笑生苑だよりを2か月に1回ご家族に発送をし、施設での活動の様子を伝えている。
- ・新規入居者の受け入れの際は、しっかりと情報収集を行い他職員に周知し寄り添い関わる事で新規入居者が不安無く、施設生活にすこしでも早く馴染んでもらうことが出来た。
- ・介護と認知症に関する知識や専門技術向上として、感染症の為、開催出来ない月もあったがケアハウスと合同で施設内勉強会を行った。非常勤職員でも参加出来るように、月曜日 14時から開催し多くの職員が学ぶことができた。開催出来ない月は資料のみ配布した。

・介護・看護に関する知識や専門技術向上として、勉強会を昼間の14時からケアハウスと合同で開催し3ヶ月間同じ内容を続けて行い非常勤職員も含め多くの職員が参加できるようにしている。

- 4月…食中毒について・災害（BCP）について・接遇について
- 5月…食中毒について・災害（BCP）について・接遇について
- 6月…食中毒について・災害（BCP）について・接遇について
- 7月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・介護技術
- 8月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・介護技術
- 9月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・介護技術
- 10月…感染症（BCP）について・認知症について
- 11月…感染症（BCP）について・認知症について
- 12月…感染症（BCP）について・認知症について
- 1月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・看取りについて
- 2月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・看取りについて
- 3月…高齢者虐待・身体拘束・リスクマネジメントについて・看取りについて

● 苑内行事

月	行 事	月	行 事
4月	料理レク・佐波川散策	10月	七輪で秋刀魚焼き食す
5月	誕生日会・市内ドライブ	11月	誕生日会・佐波川新大橋へ
6月	誕生日会	12月	クリスマス会・誕生日会
7月	料理レク	1月	新年会・誕生日会・初詣
8月	納涼祭・誕生日会	2月	節分豆まき・誕生日会
9月	料理レク	3月	誕生日会

【令和6年度の状況・評価】

- ・利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所、毎日1日2回消毒を現在も継続している。
- ・職員としっかりコミュニケーションを図り関係を作る事で、相談できる関係性を作ってきた。職員の意見を反映させ、思いを汲み取ることで職員のモチベーションアップにも繋がって行くことが出来た。
- ・新規職員の入職で職員一人ひとりが介護動作・声掛け・関りを見直すいい機会となっている。指導する側の言葉を、指導を受ける側がどう捉えるか、しっかりコミュニケーションをとり、相手の性格等を見極めた上で、その人に合った指導方法を考えていく。

- ・年末にインフルエンザ感染者が1名判明。早急に隔離対応したことで、感染者は増えずに終息した。感染症対策を職員一人一人が徹底したことでの結果だと思われる。

【令和6年度目標の達成状況】

<全体>

- ・感染症を持ち込まないように引き続き感染対策を引き続きしっかりと行う。

利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所、毎日1日2回消毒を現在も継続している。

- ・外出行事も計画し、楽しみが増える活動をして行く。

担当者がそれぞれ企画する。防府市内のドライブなど外に出る機会を昨年度より増えてきている。

- ・今出来ることを考え、その人らしい生活が行え、楽しく充実した日々を送ることが出来るよう関わりを持っていく。

各利用者の能力を見極め、その方にあった手伝い、作業を依頼することで役割を持って生活を送ってもらう。散歩に行きたいと希望される利用者には悪天候時以外、毎日声を掛け散歩に同行した。余暇時間には簡単な計算問題や塗り絵などの脳トレに取り組んでもらった。

- ・入居者一人一人の変化を見逃さず、早期発見・対応ができるよう職員の知識・技術の向上を図り、他部署としっかりと連携をとっていき、安心と安全・質の高いサービスが提供できるようにしていく。

看取り期には些細な変化も記録に残し、職員間、訪問看護とも情報共有していくことができた。日々の業務の中で利用者の変化を見て、感じ、対応方法を学んでもらえた。利用者の状態変化に早期に気づき、訪問看護に報告し診てもらうことで医療面フォローしてもらえた。

- ・地域の方との避難訓練を継続して行い、災害時等の協力体制の構築を図っていく。

今年度は地域と合同での避難訓練は開催していない。2年に1回のペースで開催を検討。運営推進会議では災害時の協力をお願いしている。

- ・空床が出た場合は早めに入居を進めていき、短期入所も受け入れていく。

12月、1月と長期入院や看取りで退去者が増え稼働率が低下した。より愛の事業廃止に伴いより愛より3名の入居者の受け入れを行った。短期入所の受け入れの相談も前年度比ベ多くあったが空所の関係で実際の受け入れは3件であった。

<右田・佐野UT>

- ・ 職員の介護技術向上を図るため、互いに知識を学び合い成長に繋げる勉強会を昼間の14時からケアハウスと合同で開催し3ヶ月間同じ内容を続けて行い非常勤職員も含め多くの職員が参加できるようにしている。講師役は職員が担当し、資料作成・勉強会を開催することで互いに知識を学び合い成長に繋げている。

- ・ 利用者の個々に合ったサービスを提供し、よりよい生活を支援する。自宅で生活の継続ができる様に、面談時に情報収集をしっかりと行う。自宅で行っていた趣味や活動を施設でも継続できるよう支援を行っている。

- ・ 日々の業務の中で改善点や疑問点など、意見を出し合える風通しのよい職場作り。毎月各ユニット会議を行い、職員の意見交換の場としている。必要に応じて、個人面談も行っている。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	4	4	5	6	6	6	5	5	5	4	5	6	5.1
要介護 2	2	2	2	1	1	1	2	4	4	5	5	5	2.8
要介護 3	8	8	8	8	8	8	7	7	5	6	6	6	7.1
要介護 4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
要介護 5	2	2	2	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1.9
合計	17	17	18	18	18	18	17	17	15	16	17	18	17.2
男性	3	3	4	4	4	4	3	4	4	4	5	6	4.0
女性	14	14	14	14	14	14	14	13	11	12	12	12	13.2

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	120	124	150	186	186	180	155	150	155	124	140	186	1,856
要介護 2	60	62	60	31	31	30	62	120	124	155	140	155	1,030
要介護 3	240	248	240	248	248	240	217	210	155	186	168	186	2,586
要介護 4	30	31	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91
要介護 5	60	62	60	93	93	90	93	30	31	31	28	31	702
合計	510	527	540	558	558	540	527	510	465	496	476	558	6,265
月平均延べ入居者数													522.1
年間稼働率													95.4%
平均介護度													2.48

デイサービスセンター たまのや

【事業基本方針】

利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、可能な限り在宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮する。

【目的】

利用者の自立支援を念頭に置き、日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

【目的】

日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

【具体的事業報告】

(1) パワーリハビリを継続実施し、トレーニング内容の充実を図った。

日常生活の中で必要な動作の維持・向上できる運動プログラムの構築と提供を実施した。また、利用者の自立心を大切にしながら、機能維持改善のための機能訓練も実施した。

- ・パワーリハビリ、個別機能訓練の実施。健康運動実践指導者によるエビデンスに基づく機能訓練の実施。ストレッチ体操、上肢・手指運動、嚥下体操、屋内外歩行の実施。
- ・柔道整復師・理学療法士の各専門分野においてアプローチできた。
- ・自立支援を念頭に在宅生活の継続を考えた生活リハビリの実施。
- ・InBody・島津製作所と共同開発した機器を活用し身体状況の見える化を実現し、機能訓練のモチベーション向上が図れた。
- ・メドマーを導入し、下肢の浮腫、疲労感の軽減にアプローチし、立位、歩行機能の維持向上に努めている。

(2) デイサービスの特徴でもある、グループダイナミクスを活かしたレクリエーション活動など、利用者が楽しめるように利用者のニーズに合ったプログラムの構築に取り組んだ。また、楽しみながら認知症予防プログラムの充実を図った。

- ・「たまのや喫茶」2ヶ月に1回 陶芸教室を実施
(お皿、コップ、花瓶、季節の飾り物などご自分で作りたい物を作成)。
- ・作品作成 (空き缶風車、季節の壁画・クラフトバンドでの籠作り)

- ・“利用者の生活を守る” の合言葉のもと、季節感を感じる壁画作りの実施
 - ・誕生月の利用者に個別の誕生会を実施し集団内での個別化を図った。
(誕生日メッセージと手作りの記念品の贈呈)。
 - ・頭の体操などの認知症予防プログラムの実施。(プリントや絵合わせなど)
- (3) マッサージ・ウォーターマッサージの実施や安全で安楽な入浴サービスの提供を継続して行なった。
- ・柔道整復師によるマッサージ、ウォーターマッサージ・メドマーの実施。
 - ・安全で安心のできる入浴サービスの提供。
 - ・足湯や入浴時の足浴を含めたフットケアの実施。

(4) 行事实施状況

月	行事内容	月	行事内容
4月	桜見物(防府天満宮)	10月	運動会
5月	つつじ見物(大平山)	11月	紅葉見物(瑠璃光寺、毛利邸)
6月	映画鑑賞	12月	クリスマス会
7月	そうめん流し	1月	初詣(三社参り)
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老会	3月	ひなまつり

【令和6年度の状況・評価】

- ・ 専門職集団として、質の高いサービスを提供するために、介護福祉士、社会福祉士の資格試験への挑戦を勧めた。結果不合格だったが自己研鑽に努めた。
- ・ ホール内の飾り物、様々なイベントを通じて「意図的な非日常的な空間作り」サプライズ感を味わっていただくことに努めた。全20項目の壁画を作成した。
- ・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院の地域連携室などの関係機関を訪問し地域のニーズや課題の把握に努めた。毎週3件の訪問を実施した。
- ・ 誠英高校、防府高校、華西中学校や、全国の教職員研修会にて朝日新聞社主催の講演会にて登壇し、福祉教育の推進と理解を図った次世代の担い手の育成の為、専門職としての講義を行った。また、全国社会福祉施設経営者協議会公式YouTubeチャンネルにて3動画がアップされ事業所の認知力向上、福祉の見える化を推進した。
- ・ 健康教室への年間6地域に講師派遣を行い、地域との顔の見える関係づくりと並行して、地域の課題を解決する手立てを模索し、地域に根ざした社会福祉法人となれるよう「ソーシャルデザイン」を持続的に実践した。(佐野・向島・牟礼・右田・西浦・阿知須など)
- ・ 在宅サービスとして、地域課題把握のため、地域の行事へ参加し住民の生の声を聴いた。
- ・ (株)島津製作所、防府市、山口市、山口大学附属病院、三田尻病院、当法人と産官連携し「認

知症予防」という「社会課題の解決」に向けたプロジェクトを継続しし、山口県相互研修会での発表し、中国大会、近畿地区老健大会においてランチョンセミナーにて当施設主任機能訓練指導員・看護師がプレゼンを行った。

- ・ レノファ山口と協働し県民の健康増進企画や山口県労働局から依頼を受け出張健康プログラムの講演を行った。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 島津製作所との認知症予防測定機器を駆使し、認知症予防、機能訓練、生活援助を基盤に利用者の認知症予防、リハビリ意欲の向上に努めるとともに、他業種との連携を計ること
で先進的な取り組みを実施し、当事業所の強みをつくり他事業所との差別化を図る。

○島津製作所と連携をとり、共同開発をおこなった。また、9月には近畿地区老健大会にて講演の依頼を受け15分間の発表を行った。また、10月には中国地区老人福祉施設協議会にてサポフルを使用した健康増進についての事例発表に推薦され、利用者への還元と並行して法人の知名度アップに貢献できたと考える。

2. 防府市内の地域福祉の拠点となれるよう、共生社会を見据えた取り組みを実施し障がい者施設などとも共同し、地域との顔の見える関係作りを実施する。

○小野デイステーション、愛グループ、向島地区、華城地区、牟礼地区などの健康教室に呼ばれ、年間47回地域での健康増進活動を実施すると共に、社会福祉法人の責務でもある地域福祉の拠点となれるよう推進している。また年間6回放課後児童デイとの交流会を実施した。

3. 稼働率向上のため、居宅介護支援事業所の定期訪問を行い、市内のみならず「秋穂・小鯖・
鑄銭司」地域まで事業展開を行う。

○毎月10回以上居宅介護支援事業所に訪問し顔の見える関係作りを行っている。また防府市介護支援専門員協議会より依頼を受け4ページにわたる広報誌の記事を掲載され知名度アップにつなげた。また「秋穂地区・鑄銭司地区」から4件の新規を受け今後送迎を工夫するなどし営業区域拡大の一步となった。

3. 稼働率向上のため、居宅介護支援事業所の定期訪問を行い、市内のみならず「秋穂・小鯖・

鑄銭司」地域まで事業展開を行う。

○毎月 10 回以上居宅介護支援事業所に訪問し顔の見える関係作りを行っている。また防府市介護支援専門員協議会より依頼を受け 4 ページにわたる広報誌の記事を掲載され知名度アップにつながった。また「秋穂地区・鑄銭司地区」から 4 件の新規を受け今後送迎を工夫するなどし営業区域拡大の一步となった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	6	5	5	5	5	5	5	4	4	5	6	6	61
要支援 1	6	6	6	7	7	8	5	6	6	6	6	5	74
要支援 2	14	15	10	10	10	10	11	10	11	14	13	16	144
小計	26	26	21	22	22	23	21	20	21	25	25	27	279
要介護 1	24	25	24	27	26	27	27	25	25	26	27	27	310
要介護 2	10	11	11	11	10	13	13	14	17	16	16	17	159
要介護 3	7	7	6	6	6	6	5	5	6	6	6	6	72
要介護 4	6	6	8	8	6	8	8	8	8	6	9	10	91
要介護 5	7	5	5	6	6	4	4	4	4	4	4	3	56
小計	54	54	54	58	54	58	57	56	60	58	62	63	688
実費利用	13	11	11	13	13	15	12	20	21	20	18	17	184
合計	93	91	86	93	89	96	90	96	102	103	105	107	1,151

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業対象者	24	22	20	21	24	19	25	16	18	20	24	19	252	
要支援 1	26	25	19	25	29	32	22	27	20	25	21	17	288	
要支援 2	112	119	79	82	85	80	93	78	87	98	89	95	1,097	
小計	162	166	118	128	138	131	140	121	125	143	134	131	1,637	
要介護 1	243	232	213	228	218	252	271	243	224	212	249	281	2,866	
要介護 2	101	119	116	113	115	129	142	136	148	141	152	159	1,571	
要介護 3	64	76	62	71	55	62	60	64	60	53	51	45	723	
要介護 4	64	64	63	71	61	74	74	75	63	44	62	66	781	
要介護 5	78	67	51	73	65	51	60	60	64	59	58	53	739	
小計	550	558	505	556	514	568	607	578	559	509	572	604	6,680	
実費利用	57	42	41	51	53	60	55	85	75	68	73	69	729	
合計	769	766	664	735	705	759	802	784	759	720	779	804	9,046	
													月平均延べ利用者数	753.8
													年間稼働率	55.8%
													平均介護度	1.38

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	3	1	4	2	5	0	7	2	4	4	4	3.2
体験利用	2	4	3	3	2	7	8	11	3	5	6	4	4.8

ヘルパーステーションスマイルネット防府

【事業基本方針】

理念「信頼・誠実」をモットーに自立に向けた援助を行い状況変化に対応できるように、常に利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、寄り添い、同じ時間を共有させて頂く気持ちで援助する。

【目的】

1. 自立支援に向けた援助を行い、利用者の状況に対応できるように全力を尽くす。
2. 常に、利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、利用者に寄り添い同じ時間を共有させて頂く気持ちで接する。

【具体的事業報告】

令和7年のカレンダーの作成・配布
利用者一人一人に誕生日プレゼント（タオル）

【令和6年度目標の達成状況】

1. コロナ禍が緩和されても、孤立をなくすために今まで以上に見守り及び観察を強化する。
 - ・訪問時の会話等を通じて異変がないか？など観察をしました。
2. 他の関係機関との連携を今まで以上に努める。
 - ・随時連絡を取れる状態にしていました。異変があれば直ぐに相談・報告をしました。
3. コロナ禍が緩和され、ヘルパー同志のコミュニケーションが欠けてきているので、なるべく情報の共有が出来るように、メールなどを利用し、ヘルパーさんの声を聴くようにしたい。
 - ・事務所に来た時は、声掛けをし、話を聞く様にする。
4. 在宅訪問時の感染対策の徹底に努める。
 - ・バイタルのチェックをし、居室環境のチェックも合わせて観察をする。
夏場の熱い時期など脱水予防に努め、水分摂取の声掛けをする。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
要支援 1	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46
要支援 2	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4	5	50
小 計	7	7	8	8	8	8	8	9	8	9	9	10	99
要介護 1	23	20	20	19	21	22	24	24	26	24	23	22	268
要介護 2	5	6	5	5	5	7	7	6	6	7	6	9	74
要介護 3	6	5	4	6	6	6	5	5	4	5	5	3	60
要介護 4	3	4	4	3	3	3	3	2	2	2	3	3	35
要介護 5	3	2	2	3	3	3	3	2	3	3	2	2	31
小 計	40	37	35	36	38	41	42	39	41	41	39	39	468
実費利用者	4	4	2	4	3	2	5	4	4	4	6	4	46
障害者総合支援	4	4	5	5	5	7	7	6	6	6	6	6	67
移動支援	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合 計	56	53	51	54	55	59	63	59	60	61	61	60	692

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	9	23	
要支援 1	20	24	24	28	23	25	26	24	25	25	23	26	293	
要支援 2	40	39	37	40	38	39	39	42	37	39	36	49	475	
小 計	60	63	61	68	61	64	65	66	62	70	67	84	791	
要介護 1	229	236	225	231	227	247	307	290	294	235	240	256	3,017	
要介護 2	63	65	51	99	95	61	67	59	62	99	86	114	921	
要介護 3	75	74	84	134	129	98	102	96	90	96	82	42	1,102	
要介護 4	34	47	42	38	33	27	31	26	30	12	26	33	379	
要介護 5	119	53	39	33	32	32	40	37	42	43	36	40	546	
小 計	520	475	441	535	516	465	547	508	518	485	470	485	5,965	
実費利用者	19	7	6	9	5	4	11	10	9	11	12	21	124	
障害者総合支援	27	28	31	27	28	38	42	40	42	40	37	42	422	
移動支援	3	3	3	3	3	4	3	4	3	3	3	4	39	
合 計	629	576	542	642	613	575	668	628	634	609	589	636	7,341	
1日あたりの訪問件数	21.0	18.6	18.1	20.7	19.8	19.2	21.5	20.9	20.5	19.6	21.0	20.5		
													月平均延べ利用件数	611.8
													平均介護度	1.51

訪問看護ステーション スマイルネット防府

【事業基本方針】

1. 利用者様の心身機能の維持向上を目指し、同時に安心・信頼される看護の提供を行い、その人らしいQOLが営めるよう援助する。
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者及び家族に対し必要とされる看護を提供する。
3. 法人内のグループホーム等及び各施設スタッフとの連携を通し入居者様の健康管理のサポートを行う。また医療機関・居宅介護事業者等との連携を密にし、信頼される訪問看護ステーションを目指す。

【目的】

1. 在宅利用者様や施設入居者様に寄り添い在宅生活が安心・安全に送れるよう援助する。
2. 在宅での看取りを視野に入れ、利用者・家族ともに穏やかな終末期を迎えられるよう援助する。
3. 利用者・家族に必要とされる看護を提供し、安心・信頼される関係を構築する。

【具体的事業報告】

1. 病状や体調の変化に注意し、悪化の防止・健康の維持増進を目標とする看護ケアを提供し異常の早期発見に努め、医療機関（主治医）との連携を密にし、適時病状報告を行い、状態変化時には早急な対応を心がけた
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者・家族にとって最善の看護が提供できるように努めた。
3. 在宅（グループホーム含む）で終末期を迎えられる利用者に対し、本人・家族を含め安らかなその人らしい終末期を過ごすことが出来るよう関わった。
4. 医療連携を基にグループホーム・ケアハウス等法人内施設との連携を図り、入居者の健康状態の確認・病状把握・異常早期発見に努め、入居者が穏やかに安心して施設で生活できるようにサポートを行う。またオンコール～緊急時の対応（訪問）電話での相談・助言、医療保険（特別指示）での訪問を行った。
5. 理学療法士の入職により、訪問看護による訪問リハビリテーションを始めることができ新たな事業展開を開始することができた。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 医療機関・居宅支援事業者など関連する機関と連携をとり、利用して頂ける（リピートして頂く）訪問看護ステーションにしていく。
 - ◎定期的に新規の依頼は続いている。新しい所からの依頼も増えている。前年度に比べても件数は増えている。
2. 地域と交流し、地域との信頼関係を構築する。（交流する場への参加）
 - ◎小野デイへの継続的な参加。
3. 質の高い看護を提供するために、チームで統一した看護の提供をする。
（看護のスキルアップのために各種研修に参加。コミュニケーション不足にならないよう普段から話し合える環境作りをする。）
 - ◎スケジュール的に研修に行く余裕がなく、数回しか参加できなかった。法定研修について相談はしていたが話が進まず年度末に慌てて準備をしたりと段取りが悪かった。
時々しか行っていなかった朝の申し送りを毎朝実施。共有のツールを1から作成し、作業の進行状態や Todo リスト、予定表、情報をいつでも確認し共有できるようにした。
4. 理学療法士による訪問リハビリテーションの開始により、新しい事業展開ができる。
 - ◎昨年2月、今年の1月からと2名の理学療法士が入職され、新しく訪問リハビリを開始することができた。要望も多く現在も予定が殆ど埋まっている状態。リハビリ枠の増加を検討していく必要あり。
5. 新卒入職されたので、新人教育の基盤を作り法人内で協力を仰ぎ育てていく。
 - ◎新人プログラムを作成し、プログラムに沿って行っていたが途中で頓挫してしまった。
準備に時間があまりなく初の試みであったためか、理解が得られず周りの協力が得られなかった。できなかった部分は訪問時や空いた時間で補っていった。現在1年たちクレームもなく訪問し、事務作業においても問題なく行えている。技術は杜の特養で学ばせていただいたので実務においても行えている。今年3月にも新しく若い人材が入職されたので、今後のためにも周りが協力して育てていくという環境を作ることが今後の課題と考える。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	6	6	5	4	3	4	5	4	4	3	3	3	50.0
要支援 2	4	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	60.0
要介護 1	15	15	13	13	14	12	14	14	15	15	16	16	172.0
要介護 2	3	5	5	6	7	6	6	6	7	5	5	4	65.0
要介護 3	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	22.0
要介護 4	3	4	6	6	7	6	6	6	6	5	5	5	65.0
要介護 5	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	35.0
医療(後期)	9	7	16	15	11	11	7	8	10	12	12	7	125.0
医療(国保)	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	13.0
医療(社保)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12.0
合計	45	47	57	56	55	51	51	50	54	52	53	48	619.0

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	21	27	20	14	12	15	23	14	11	11	10	14	192	
要支援 2	22	22	19	29	24	27	24	24	26	22	23	27	289	
要介護 1	66	63	60	56	60	52	58	58	65	62	63	70	733	
要介護 2	19	27	22	33	30	34	32	28	30	25	24	23	327	
要介護 3	0	5	10	20	2	20	24	21	21	22	15	18	178	
要介護 4	15	16	13	33	32	27	37	31	30	30	24	23	311	
要介護 5	10	7	11	80	12	11	15	13	15	13	12	19	218	
医療(後期)	168	206	278	203	106	124	73	103	100	145	138	79	1,723	
医療(国保)	8	11	4	12	21	8	8	4	4	3	4	4	91	
医療(社保)	12	16	14	15	14	10	15	14	20	22	12	13	177	
合計	341	400	451	495	313	328	309	310	322	355	325	290	4,239	
1日あたりの訪問件数	11.4	12.9	15.0	16.0	10.1	10.9	10.0	10.3	10.4	11.5	11.6	9.4		
													月平均訪問件数(介護)	187.3
													月平均訪問件数(医療)	165.9

法人内事業所との連携～医療特別指示による訪問件数（令和6年4月～令和7年3月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計件数	124	179	228	174	68	86	58	94	75	89	127	73	1375
ケアハウス(点滴)	63	69	96	42	6	17	3	13	0	62	27	0	398
(処置)	0	0	0	0	0	0	3	9	0	4	8	8	32
笑生苑(点滴)	0	33	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66
(処置)	12	12	9	11	8	9	19	14	25	0	0	0	119
より愛(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由の杜(点滴)	21	21	0	42	17	7	0	30	10	0	0	0	148
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	36	50	94
Filage(点滴)	0	16	50	16	17	12	0	0	17	0	29	0	157
(処置)	28	28	34	63	20	30	33	28	23	8	14	13	322
徳地(点滴)	0	0	6	0	0	11	0	0	0	7	13	2	39
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

グループホーム 笑生苑より愛

【事業基本方針】

「地域の中のより愛」

～近隣との良き交流のある生活～

【目的】

地域の一員として自治会や近隣の方々に見守られている。苑庭にある畑に近隣の方が手入れを行い、また入居者の話し相手にもなっている。日常に近隣の方が来苑する、開かれた苑の運営を実施する。

【入居者の状況報告】

- ・ R6.12 事業所休止に伴い 11 月に全員転居
転居先：笑生苑、GH 自由の杜、特養自由の杜、他事業所の有料老人ホーム

【具体的事業報告】

- ・ 地域行事への積極的な参加として、4月と12月に農・排水路の清掃作業を行った。
- ・ 地域に開かれたグループホームとして、畑を近隣の方が世話してくださったり、自治会役員への緊急時の援助依頼をお願いしたりした。
- ・ 近隣の方が世話して下さった野菜は月2回の昼食作りに使用し、季節を感じられるように工夫した。
- ・ 南圏域 GH 協議会へ参加した。今年度2回開催され、各事業所の情報交換の場となっている。
- ・ 南圏域の GH の職員が運営推進会議に「知見を有するもの」として出席して下さった。こちらからも出席しており、横のつながりが広がっている。

3、月別行事

月	実施項目	場所	目的
4月	ドライブ	市内	季節を感じる。
5月	玉ねぎの収穫 ドライブ	より愛 市内	収穫を喜ぶ。 気分転換を図る
6月	スポーツ大会 ドライブ	より愛 市内	運動不足解消。気分転換。 季節を感じる。
8月	すいか割り	より愛	季節を感じる。
9月	敬老会 夏祭り	より愛 より愛	長寿を祝う。 他者との交流。
10月	サツマイモ掘り	より愛	収穫を喜ぶ。
11月			
12月			
1月			
2月			

・月間行事：クッキング（月2回：日曜日）

・おやつ作り（月2回）

・

【令和6年度の状況・評価】

- ・避難訓練実施：4・10月 風水害避難訓練実施：9月
- ・空床が続く
2階の部屋が空いている。階段の昇降が出来ることなど入居されるにあたっての条件がなかなか難しい。
- ・職員数の不足
職員の勤務条件に制限があり、日々の業務を遂行することが精いっぱい状況である。行事を行うことも担当回数が増え、負担が増した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 入居者が張り合いや楽しみのある生活を送れるようにコミュニケーションを図ることに重点を置く。また、感染対策を行いながら外出を行い、入居者の希望にそって戸外に出かけられるような支援を行いたい。
⇒下肢筋力の低下が見られる方が増え、歩行時に必ず見守りを要するようになった。外出は個別で行い、転倒のないように気を配った。
2. 職員が自身の知りたいこと、興味のあることなどを学習する。そして、学んだことを発表する場を最低1回は設け、スキルや能力の定着につなげる。
⇒職員の勤務時間が増え、負担になると思い、実施することはしなかった。研修は継続して行った。
3. 年間稼働率 98%以上を確保し事業運営の安定化を図る。
⇒空室を埋めることができなかった。そのため、休止に至る。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	3	3	3	4	3	3	1	0	0	0	0	1.9
要介護 2	2	2	2	2	2	3	3	3	0	0	0	0	1.6
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 4	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.6
要介護 5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
合 計	7	7	7	6	7	7	7	4	0	0	0	0	4.3
男 性	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	1.3
女 性	5	5	5	4	5	5	5	2	0	0	0	0	3.0

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	90	101	90	93	91	90	77	5	0	0	0	0	637
要介護 2	60	62	60	62	62	90	93	29	0	0	0	0	518
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 4	30	31	30	31	31	30	11	0	0	0	0	0	194
要介護 5	30	31	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91
合 計	210	225	210	186	184	210	181	34	0	0	0	0	1,440
月平均延べ入居者数													120.0
年 間 稼 働 率													43.8%
平 均 介 護 度													2.00

デイサービスセンター 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

「ここに来て良かった」・「楽しいと思えるデイサービス」を支援方針とし、利用者個々の権利と意思を尊重しつつ、その存在意義を見出せるよう中立公平な視点に立ち、行政・病院機関・他の介護事業所・地域包括支援センター・地域施設などと連携・協働し、利用者を支える地域拠点としての展開を行う。

【目的】

利用者が住み慣れた地域で、その人らしく在宅生活を継続していけるような「楽しみ・生きがい作り」に努め、ご利用者と職員が「共に楽しく・穏やか」に過ごすことのできる安心・安全な支援業務を、介護職員・看護職員・機能訓練指導員が一体となって提供する。

【具体的事業報告】

1. 「利用者の満足度」の向上

- ・丁寧な対応を第一に、楽しい・嬉しいと思う時間を増やす
- ・利用者個々の利用時間に配慮した行事やレクリエーションを計画・実施する
- ・利用者の体調を十分に把握・考慮し、メリハリのあるデイサービスづくりを実施する

2. 「継続的な地域協働」の構築

- ・認知症カフェや職員の地域行事への参加を通じて「見える事業所づくり」を行う
- ・ボランティア受け入れや地域への広報活動を行い「行きたくなる事業所づくり」を行う
- ・当苑ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所との「繋がる事業所づくり」を行う

3. 「多様化するニーズ」への対応

- ・ご利用者個々のニーズや支援計画を把握し、個別に関わる“質”を高める
- ・自宅では一人で行えないことを職員と共に行い、“存在意義”を高める
- ・研修や地域行事・活動を通じて自己研鑽に努め、職員の“やりがい”を高める

【令和6年度の状況・評価】

令和6年4月から12月までは順調に利用者増があり増収に繋がった。一方で支出が多く収支のバランスが良くなかった。1月から3月は入院や施設入所が続き利用者減で減収となってしまう、その状況に備える事が出来なかった。

創設以来からある什器備品類の修理も続いており、適正な収支状況を圧迫する原因となって

いる。

宇部市内における苑の立ち位置を考えたとき、通所介護事業単独で早急な事業改善は難しいため、収支のバランスを図る必要がある

3月末での管理者の退職があったが、新管理者がなかなか決まらず引継ぎがうまくできなかったため混乱や非常勤職員の令和7年度の契約にも影響があった。令和7年度は新体制となるため体制を整え、市内居宅介護支援事業所にアピールしていきたい。

令和7年3月に防災訓練実施。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 「日頃からの対話」を中心とした、ニーズに合った職員資質の向上に努める。
 - ・利用時間や送迎、入浴方法等、個別のニーズに合ったサービス提供ができていた。
 - ・利用時間の短い利用者に対しては、短い時間で必要なサービスを提供しなければならぬため、落ち着いて過ごしていただくことができないこともあったと思われる。
 - ・利用者個々でニーズが違うため、バランスをとるのが難しかった。

2. 体験3件・新規利用2件を毎月の目標として、事業運営の安定化を図る。
 - ・新規利用者平均2.1名/月と目標達成。
 - ・体験利用者平均2.7名/月と概ね達成。

3. 地域との関り・結びつきをより深めるため、原則、苑外活動・地域活動を月1回実施する。合わせて2階フロアなど、施設を有効活用した行事等を実施する。
 - ・毎月第3水曜日に2階フロアで認知症カフェを実施し、DSスタッフの体操が人気となっている。
 - ・施設スタッフの地域行事への参加もあり、地域の新聞にも掲載された。
 - ・外出行事については、利用時間がまちまちなため個別の対応としたが、あまりできなかった。

4. 当苑ヘルパーステーション・居宅介護支援事業所との適切な協力関係を構築し、利用者やそのご家族、地域に開かれた、生産性の向上を目的としたサービスを提供する。
 - ・同敷地内に併設事業所がある利点を生かし報告や連携がスムーズにできた。
 - ・業務の効率化を図るため、業務内容（業務の流れ、書類）の見直しを行った。

5. 感染予防に努め、災害時も継続性・安定性のある事業体制を構築していく。
 - ・新型コロナに感染する利用者や職員もいたが、クラスターになることなく最小限に抑える事ができ、事業運営に大きな影響はなかった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	2	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	27
要支援 2	1	1	1	2	4	6	5	5	7	5	5	5	47
小 計	3	4	4	5	7	9	8	8	8	6	6	6	74
要介護 1	22	20	19	20	19	19	21	21	23	22	22	22	250
要介護 2	10	11	11	11	11	11	12	13	13	13	11	13	140
要介護 3	6	6	5	5	5	4	4	4	3	4	4	4	54
要介護 4	4	4	4	4	5	6	5	6	6	5	4	5	58
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	42	41	39	40	40	40	42	44	45	44	41	44	502
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	45	45	43	45	47	49	50	52	53	50	47	50	576

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	7	14	16	17	15	15	17	17	8	8	7	6	147
要支援 2	4	5	4	7	20	38	37	35	43	33	34	30	290
小 計	11	19	20	24	35	53	54	52	51	41	41	36	437
要介護 1	237	217	203	233	225	202	226	228	237	205	199	218	2,630
要介護 2	95	112	111	113	113	116	141	136	134	114	92	94	1,371
要介護 3	71	67	61	69	48	42	36	34	41	36	61	66	632
要介護 4	29	33	30	32	34	46	37	44	48	25	24	32	414
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	432	429	405	447	420	406	440	442	460	380	376	410	5,047
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	443	448	425	471	455	459	494	494	511	421	417	446	5,484

月平均延べ利用者数	457.0
年間稼働率	62.8%
平均介護度	1.65

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	1	0	4	3	4	2	1	2	1	2	3	2.1
体験利用	1	2	3	4	4	2	4	2	1	4	3	2	2.7

ヘルパーステーション 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

ご利用者の気持ちに寄り添い、本人のニーズや意思を尊重出来るよう配慮しつつ、実現に向けた自立支援・援助を行うことを念頭に、ヘルパーステーション単独で考えるのではなく「宇部あいおい苑」全体でご利用者やご家族との良好な関係を構築し、職員一人ひとりが責任を持って支援・援助していく。

【目的】

常にご利用者を中心として考えながらご家族の気持ちにも寄り添い、地域資源の活用も含め「気配り・目配り・心配り」を行うことで、ご利用者の満足度に繋げる。

また、ご利用者の小さな変化に気付く力とサービスの質の向上・均一化を図り、ご利用者・ご家族と職員、職員同士の信頼関係を構築することを目的とする。

【具体的事業報告】

1. 業務内容の見直しを図り、事務作業の効率化を進める。
2. 特定事業所加算（Ⅱ）算定必須事項による、ヘルパーの訪問毎の報告により、正確な現状把握をする。サ責からの毎回指示の実行により、次回の訪問がさらに良くなるよう支援に活かす。
3. 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所への現状報告書作成及び、積極的な情報提供を行う。
4. 宇部市訪問介護事業所連絡会・研修会に参加し、情報・意見交換継続強化と介護技術、知識の向上を目指す。
5. 宇部CM・家族・他事業所関係者との密な連絡・連携の確保
6. 報告・連絡・相談（ほうれんそう）の徹底

【令和6年度の状況・評価】

防災訓練は令和7年3月に行った。令和6年度は25,995千円の事業活動収入があり、5年度と比べて197千円の減収となった。介護報酬が改正になり、報酬単価が減額になった最初の1年だったが、活動収入はほぼ保つ事は出来た事は良かった。次年度は増収を目指し安定した運営体制を継続したい。今年度にて、管理者の古谷敬志氏が退職され、濱邊恵理子氏を新管理者として迎えた。新規体制のもと次年度も職員間のコミュニケーションを密に行い、良い支援が出来るように努めたい。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 事例共有を目的とした、月1回のヘルパー職員会議の実施。
毎月のヘルパー職員会議は実施出来た。一同に揃う事は難しいので、欠席の職員にはそれぞれに伝達するようにした。
2. ターミナル期など多様化する利用者ニーズに対応するために、年2回の実践研修を苑内で開催し、訪問職員として必要な支援力の向上に努める。
6月に外部講師を招いての移乗、移動についての実践研修を行った。1回ではあったが、多くの参加者があり、有意義な研修になった。
3. 外部研修や地域行事への参加を推奨し、様々な社会資源とのネットワークづくりを行う。
外部研修の参加はしたが、地域行事への参加はできなかった。
4. 「会話の質の向上」を目的とした、対話出来る環境づくりを継続する。
休憩スペースを設け、ポット、お茶の準備をし、気軽に立ち寄ってもらえる環境を整備した。ヘルパーさん同士で一息つきながら、情報共有されていた。
5. 苑内のデイサービスセンター・居宅介護支援事業所との連携を強めるべく、研修や共有会議等に参加し、信頼関係を深める。
苑での会議に参加し、ご利用者の情報共有をして、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所との連携強化に努めた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	38
要支援 1	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	79
要支援 2	14	13	13	13	10	10	11	9	11	11	9	8	132
小 計	23	22	22	22	19	20	21	19	21	22	20	18	249
要介護 1	26	24	24	24	20	20	22	21	24	24	23	20	272
要介護 2	12	13	14	17	20	18	18	18	16	16	16	15	193
要介護 3	2	3	3	4	3	3	3	2	2	1	1	1	28
要介護 4	0	0	0	1	1	2	1	4	4	2	3	2	20
要介護 5	3	3	3	2	2	1	1	2	2	2	2	2	25
小 計	43	43	44	48	46	44	45	47	48	45	45	40	538
実費利用者	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	6
合 計	66	65	66	71	66	65	66	66	70	68	66	58	793

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	11	15	11	13	13	12	15	10	13	15	16	12	156
要支援 1	27	34	27	28	29	35	38	37	36	34	34	43	402
要支援 2	89	85	70	70	60	55	60	42	57	58	51	48	745
小 計	127	134	108	111	102	102	113	89	106	107	101	103	1,303
要介護 1	252	240	226	255	180	167	198	205	226	236	214	183	2,582
要介護 2	104	127	113	184	155	140	156	145	117	115	102	113	1,571
要介護 3	16	20	16	36	39	37	47	36	35	12	12	13	319
要介護 4	0	0	0	6	12	16	14	27	38	28	26	15	182
要介護 5	23	45	31	28	24	23	37	53	51	42	52	54	463
小 計	395	432	386	509	410	383	452	466	467	433	406	378	5,117
実費利用者	0	0	0	2	1	1	0	0	4	4	4	4	20
合 計	522	566	494	622	513	486	565	555	577	544	511	485	6,440
1日あたりの訪問件数	17.4	18.3	16.5	20.1	16.5	16.2	18.2	18.5	18.6	17.5	18.3	15.6	
	月平均訪問件数												536.7
	平均介護度												1.31

居宅介護支援事業所 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

介護保険法の理念に基づき、高齢者が在宅にて自立した生活を送れるよう、また介護者が在宅で介護できるように、行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源の活用も含めた居宅サービス計画書の作成、介護保険の相談業務を行なう。

【目的】

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、その人らしく生活を継続できるように中立・公平的な視点からサービス利用の調整を行う。

介護が必要な状態になっても、自身の有する能力に応じて可能な限り生活を営むことができるよう、心身の状況や環境因子に配慮し必要なサービスや社会資源を提供する。

【具体的事業報告】

① 住み慣れた地域で在宅生活が続けられるように、適切な福祉サービス・医療・社会資源の機能を有機的につなげ、きめ細やかなサービスを提供。

A:コロナウイルスが第5類にはなったが、病院での面会禁止は続いており、在宅介護を希望される方が相変わらず多い。利用者の様々なニーズに応えられるよう、各関係機関との連携を綿密に行い、必要な時に必要なサービスが途切れる事なく受けられるようにした。

② 近隣の病院・地域包括支援センターや様々な社会資源とのネットワーク・信頼関係の構築するため迅速・丁寧・確実な対応した。

A:地域ケア会議へ参加し、様々な分野の方と交流する機会が出来、ネットワークが広がっており、結果、利用者へ還元する事が出来ている。

③ 多様化するニーズに対応する為、職員それぞれが研修参加や新たな社会資源の発見を行い自己研鑽に努めた。

A:主任ケアマネである事から、研修、更新研修等は必須であり、研修に参加している。また、他の居宅介護支援事業所との研修会を自ら開催し、自己研鑽に努めた。

【令和6年度の状況・評価】

- ① 令和6年度は10月にケアマネジャー1名追加となり、計画していた予算が予算とならなかったが、特定事業所加算Ⅲを宇部あいおい苑創立初、取得する事が出来ており、3名体制となった以上の収入の結果は残せているのではないかとと思われる。
- ② 新体制になり少しずつ落ち着きを取り戻せてはいるが、未だ地に足がついていない部分も多い為、令和7年度にはこの新体制が当たり前の宇部あいおい苑として、外部に認識される事を目指したい。
- ③ 新規の利用者はほぼ毎月獲得出来てはいるが、事業所内のデイサービスやヘルパーへの紹介が出来ない依頼も多い。自事業所への紹介率としては前年と大きな変化はなかった為、来年度はさらに増やしていきたい。
- ④ 防砂訓練は令和7年3月に開催しました。

【令和6年度目標の達成状況】（）内が回答

1.制度改正の移行にスムーズに対応し、新規契約者の継続的な確保：年間12件以上（毎月新規の依頼を得るとし）を目指す。また、今一度地域包括支援センターや病院、地域連携室等の各種機関との連携を密にし、依頼のあった利用者のその後の報告・相談等、選ばれる事業所づくりを目指す。

（制度改正の移行についてはソフトの更新や変更もあり多少戸惑ったが、比較的スムーズに行えていると思う。新規の契約については毎月依頼があったわけではないが、ひと月に数名あった月もあり、年間としては12件を大きく超える依頼を受けている。宇部あいおい苑で認知症カフェを行っている事から、包括との係わりは以前より深まっている。また、病院地域連携室等には入退院の連携を密に取るようにした。）

2.利用者やその家族との更なる信頼関係向上を目指し、一新したアセスメントシートを効率よく使用するためにも、深みのあるアセスメントを重要視しつつ利用者の叶えたい夢、ご家族の想いを具体化し叶えられる目標として提示する。合わせて継続的なモニタリングを通し、実現出来ているかどうかの確認をしながら、利用者が望む生活に近づけるよう、意識して支援を行う。

（新アセスメントシートへの移行もスムーズに行えている。令和6年度には運営指導も行われ、改めてアセスメント、モニタリングの必要性、サービス計画書への落とし込み等、再度認識する事が出来ている。）

3.当居宅介護支援事業所の社会性を高めるため、研修への参加はもちろんのこと、他の居宅介護支援事業所との繋がり・連携を図り、ニーズとサービスの整合性について観察できる視点を

高める。

(主任ケアマネの更新研修や、内部研修での外部講師等の依頼等で外部の介護支援専門員との連携も図れた。)

4. 苑内事業所との連携を図るため、職員会議や研修を合同で実施・参加し、職員間の意識共有と紹介率の向上を合わせて行いたい。

(高齢者虐待、感染症、業務継続計画等の研修等を事業所内の会議で行う事で、苑内の共有意識は深まった。これからも事業所内での連携を図り、今後も紹介率のアップに繋げていくようにしたい。)

介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
要支援 1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1		12
要支援 2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	2	21
小 計	3	2	2	2	2	2	4	3	3	4	5	3	35
要介護 1	32	36	37	35	36	35	46	43	44	43	41	41	469
要介護 2	18	18	19	20	22	23	29	29	28	28	30	27	291
要介護 3	9	10	7	8	7	6	10	11	13	13	14	14	122
要介護 4	9	9	8	8	9	9	20	21	20	18	17	17	165
要介護 5	4	6	5	4	4	5	9	14	12	10	12	13	98
小 計	72	79	76	75	78	78	114	118	117	112	114	112	1,145
合 計	75	81	78	77	80	80	118	121	120	116	119	115	1,180
												月平均利用者数	98.3

グループホーム 湯田あいおい苑

【事業基本方針】

1. 「地域と友（共）に」あることを大切にします
2. 「笑いの絶えない心地よい空間」を大切にします
3. 「約束を守る」ことを大切にします
4. 「音のある風景」を大切にします
5. 「温もりのある香り」を大切にします
6. 「認知症を個性ととらえ思いやりの介護」を大切にします

【目的】

家庭的な生活のもとで、安全で住みやすい環境作りを行い、日々の生活の中で身体機能維持・向上を図り、楽しく毎日の生活ができるように支援させていただいています

【入居者の状況報告】

(1)入退居・入院状況

・退居者 4名 入居者 4名

(2)入居者の年齢

・80歳代×9名 ・90歳以上×8名 平均年齢 90.2歳

(3)病名

- ・アルツハイマー型認知症 10名
- ・レビー小体型認知症 1名
- ・血管性認知症 6名

(4)障害高齢者の日常生活自立度

・J2×1名 ・A1×5名 ・A2×7名 ・B1×2名 ・B2×1名 ・C1×1名

(5)認知症高齢者の日常生活自立度

・Ⅱb×3名 ・Ⅲa×6名 ・Ⅲb×3名 ・Ⅳ×4名 ・M×1名

(6)医療機関への受診

・協力医 45件 ・他医療機関 110件

【具体的事業報告】

- (1) 市内探訪：車窓から季節の風景を楽しんでいただいた
梅・桜・つつじ・紫陽花の花見、初詣
- (2) 毎月の行事：誕生会、音楽レクレーション、手芸教室、料理（土曜日）

季節の行事：母の日、父の日、夏祭り、敬老会、バーベQ大会、

クリスマス会、餅つき、元旦らしく、新年会、節分、ひな祭り

(3) 地域との交流：散歩でご近所さんと挨拶、回覧板を持っていく

湯田保育園の灯籠づくり、秋葉子ども神輿 など

(4) 日常的なアクティビティ：手芸、書道、ラジオ体操、DVD体操、唱歌、塗り絵、パズル、

折り紙、計算ドリル、漢字ドリル、家事手伝い（洗濯物を干す、畳む、食器洗い、台拭き、掃除、新聞紙折り）

(5) 災害想定訓練：非常災害想定避難訓練およびBCP訓練---5月、11月

火災想定訓練---5月、10月

感染症対策BCP訓練---10月、11月

【令和6年度の状況・評価】

職員不足と入居者様の入れ替わりによる不安定な状態が継続しました。8月には新型コロナウイルス院内感染が発生しましたが、重症化することなく施設療養で回復されました。

現在のご利用者様の平均介護度2ですが、認知症による行動・周辺症状は短期記憶力低下および徘徊等重度化した方が多く、転倒・転落、離設による事故が目立ち、常に見守介護が必要な状況にあり職員の負担は大きくなっています。毎月ご利用者様一人ひとりについてケア会議を行い、ご本人様の思いをくみ取りながら、チームで支えていけるケアを目指しました。

また4つの委員会が中心となって、身体拘束・高齢者虐待、感染症予防、非常災害対策、認知症ケア等の勉強会を行い、職員間でお互いの知識・意識を高め、考え、ご利用者様がより快適に過ごせるよう自己研鑽が図れるよう努めました。

【令和6年度目標の達成状況】

感染対策を実施しつつ、ご家族様と面会や外出、地域のお祭りへの参加など徐々に地域社会との繋がりが持てる生活環境に戻せるように努めました。

今年度は内部研修が中心となりましたが、各委員会を中心とした勉強会をすることで自己研鑽への意欲も生まれ、ご利用者様へのサービスの汁の向上に繋がっています。

施設見学を積極的に受け入れてきましたが、入居に結びつかず残念ながら目標とした稼働率を達することができませんでした。次年度は安定した施設運営ができるよう努めます。

海ユニット：穏やかに優しく対応できるよう、毎月のケアの見直しを行い、チーム内で情報の共有を図り『思いやりの心が連鎖する介護』ができるよう努めています。

空ユニット：認知症があってもご利用者様一人ひとり思いを汲み取るよう努力し、心身共に健康であることを目指しています。日々の生活の中でご利用者様と職員共に笑い声と笑顔が多くなったと感じています。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	7	7	7	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6.5
要介護 2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.3
要介護 3	6	6	6	7	7	8	7	6	6	6	6	6	6.4
要介護 4	0	1	1	1	0	0	1	1	2	2	2	2	1.1
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	16	17	17	16	15	17	17	16	16	16	16	17	16.3
男性	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
女性	15	16	16	15	15	17	17	16	16	16	16	17	16.0

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	211	217	210	203	186	198	217	210	186	186	168	186	2,378
要介護 2	90	63	90	62	62	60	62	60	62	62	56	63	792
要介護 3	180	186	180	217	217	201	203	183	186	186	168	186	2,293
要介護 4	0	0	30	29	0	0	31	30	62	62	56	62	362
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	481	466	510	511	465	459	513	483	496	496	448	497	5,825
月平均延べ入居者数													485.4
年間稼働率													88.7%
平均介護度													2.13

グループホーム 徳佐あいおい苑

【事業基本方針】

1. あ 明るく微笑みのある生活 を大切にする。
2. い 生きがいのある生活 を大切にする。
3. お お互いを認め合う生活 を大切にする。
4. い 今を共に生きる生活 を大切にする。

【目的】

自然の中で季節を感じてもらい、「その人らしく」をモットーに
毎日を楽しく・生きがいを持って、自分らしく暮らせるように支援する。

【入居者の状況報告】

(1) 入居・退去状況

- ・入居 3 名
(自宅 1 名、病院 1 名、老健 1 名)
- ・退去 3 名 病院 3 名

(2) 入居者の年代 (令和 7 年 3 月現在)

- 80 歳未満 4 名
- 80 歳以上 85 歳未満 . . . 0 名
- 85 歳以上 90 歳未満 . . . 1 名
- 90 歳以上 95 歳未満 . . . 9 名
- 95 歳以上 4 名
- 平均年齢 88.6 歳

(3) 介護度別 (令和 5 年 3 月現在)

平均介護度 (3 月現在) 2.38

- 要介護 1 3 名
- 要介護 2 10 名
- 要介護 3 2 名
- 要介護 4 1 名
- 要介護 5 2 名

(4) 医療機関への受診・入院

定期往診 澤田医院×18名

定期受診 仁保病院×6名

済生会病院×2名（家族対応2名）

【具体的事業報告】

令和6年度、徳佐あいおい苑は昨年同様に利用者の意思決定支援を基に利用者に支援することができた。感染対策を行いながら季節に合った行事を行う事ができた。入所、退所も3名あったが本人、家族の意向に添い支援できた。

全体的にのんびりゆっくり時間が経過した1年間でした。

(活動の状況)

1. 苑内行事

誕生会、七夕行事、敬老会、

クリスマス会、新年会、節分祭、ひな祭

2. 苑外行事（外出等）

近所を散策、ドライブ、花見

3. 交流行事

三世代交流事業に参加、阿東東中学校、福祉体験事業に講師参加。

4. その他、日常の活動

散歩・ウッドデッキでのお茶や日光浴・パンケーキ作り

体操・家事の手伝い・貼り絵・ちぎり絵・アクティブレク

【令和6年度の状況・評価】

今年、一年を振り返り、感染対策を行いながら季節に合った行事や苑外散策を行うことができた。コロナ感染にて感染も利用者に広がったが大事には至らなかった。新人職員も多く入職した。介護の基礎、倫理観を身に付けるように支援した。当苑は利用者の意思決定支援を第1に考える事ができるように取り組んできた。防災訓練を年2回（6月、11月実施）、年2回しか訓練がないので忘れていく職員が多いのが現状であった。再度、職員会議等を活用し誰でもできるように取り組んで行く。職員研修では特にスピーチロクについて勉強したがやはり感情のコントロールができない職員もおり、その都度、対応した。今後も利用者の意思決定支援を支援できる様に取り組んで行く。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 地域での施設の位置づけを理解し地域包括ケアシステムの役割を果たす。

徳佐あいおい苑が地域の一員としての役割を理解しケアシステムの一部として機能することができた。

2. 利用者の意思決定支援に基づき利用者を支援して行く。

何事の決定事項に於いても利用者の意思を尊重した支援に取り組んだ。

3. 利用者の体調管理に努め早期発見、早期対応に努める。

過疎地であり医療面は他地域より弱い面がある。そのことを理解し、早目の発見、対応を図った。

4. グループホームでは年間平均稼働率 95%、共用型デイサービス年間平均稼働率 60%以上で安定した収入を図る。

グループホームの年間稼働率は 95%以上、デイサービスも 60%以上であり目標は達成できた。

5. 共用型デイサービス、緊急ショートステイ等を有効活用し利用者、家族のニーズに対応して行く。

利用者、家族の希望に添い、デイサービス、ショートステイ共に有効活用できた。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3.9
要介護 2	10	10	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	9.5
要介護 3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2.6
要介護 4	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8
要介護 5	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	1.1
合 計	18	18	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	17.8
男 性	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	5.7
女 性	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12.2

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	150	153	135	124	124	120	116	109	93	93	84	93	1,394
要介護 2	295	295	230	272	262	264	278	257	306	309	280	310	3,358
要介護 3	90	93	74	93	93	90	93	60	62	62	56	62	928
要介護 4	0	0	0	31	31	30	31	30	31	31	28	31	274
要介護 5	0	0	0	0	13	30	31	60	62	56	52	62	366
合 計	535	541	439	520	523	534	549	516	554	551	500	558	6,320
月平均延べ入居者数													526.7
年間稼働率													96.2%
平均介護度													2.19

グループホーム 徳地あいおい苑

【事業基本方針】

1. 個性を尊重し、信頼関係の構築に努める。
2. 価値観に共感し、毎日を大切にすること。
3. 敬愛の心で支援を行う。
4. ご家族や地域と共に、笑顔あふれる『我が家』にしていく。

【目的】

住み慣れた地域において、家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄などの日常生活の援助及び心身の機能訓練を行い、入居者が有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう支援することを目的とする。

【事業基本方針】

- ・個性を尊重し信頼関係の構築に努める。
- ・入居者の皆さんと価値観を共有した毎日を過ごす。
- ・常に敬愛の気持ちを持って、支援を行う。
- ・ご家族や地域の皆様の協力を得ながら、明るく楽しい笑いのある場所づくり努める。

【目的】

入居者一人ひとりと向き合い信頼関係を築き必要とされる支援を行うことで、毎日が安心安全に暮らし『ぬくもりの家』を提供する。

【入居者の状況報告】

(1) 入居 2名 退居 4名

(2) 入居者の年齢 令和7年3月31日現在

70～79歳以下×0名 80～89歳以下×9名 90歳以上×7名

平均 89.9歳 81歳～101歳

(3) 介1 4名 介2 5名 介3 3名 介4 1名 介5 3名

(4) 医療機関への受診支援

- ・おおうちクリニック ・仁保病院 ・えま皮膚科 ・あさひ歯科 ・かわもと眼科
- ・山口赤十字総合病院 ・県立総合医療センター ・山口泌尿器科クリニック
- ・小郡第一病院 ・松本外科 ・徳地診療所 山口博愛病院 防府市保健センター休日診療所 光山医院 うちみち脳神経外科

【具体的事業報告】

- (1) 市内外探訪 車窓から季節の風景を楽しむ（桜、ツツジ、紫陽花など）、初詣
- (2) 苑内行事 運動会、ゲーム大会、敬老会、クリスマス会、餅つき、敬老会など
- (3) その他活動 書道、ラジオ体操、風船バレー、唱歌、塗り絵、ちぎり絵、折り紙、切り絵、裁縫、漢字ドリル、計算ドリル、文章書き写し、テーブルゲーム、おやつ作り、家事（料理下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、台拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除）など

【令和6年度の状況・評価】

防災訓練を年4回、5月1回 3月は2回 11月は外部団体合同で防災訓練を行った。少しずつ外出の機会を増やし地域や家族との関りも増やすことができた。感染対策としては初期対応のトレーニングを行うことで、実際の場面でも役立っている。2件の看取りを行い訪問看護師を交えての意見交換を常日頃から行う事で職員の不安軽減となった。今後も看取りの研修を行うことで安心してお見送りが出来るようにしていきたい。特定技能性2名と、新たな採用者1名により人員にも余裕ができ入居者、職員ともに声掛けや言葉使いを振り返るきっかけになっている。空床期間が半年以上続き稼働率が目標に達していないためより一層に外部への情報発信が必要と感じる。

【令和6年度目標の達成状況】

- ・入居者の尊厳を守り言葉掛けや支援を振り返り改める

毎月のミーティングで課題を話し合い職員一人一人がケアを振り返ることを行った。

良い支援に向けて職員同士が指摘し合える環境は出来つつある。言葉がけについて拘束、虐待に関わるような言葉はまだ見られているのが現状。常に自問自答して振り返る事がこれからも課題として必要。

- ・入居者の体調管理に努め、身近な訪問看護、主治医との連携を密にし早期発見、対応に努める。

職員との申し送り等で「何かおかしい」と感じることを共有し、場合によっては身近な医療に相談、受診することを行った。

- ・感染症を持ち込まないように感染対策の徹底に努める。発症者が出た場合にも感染拡大を防ぎ最小限の感染者で終わるよう初期対応の技術を徹底する。

初期対応を誰もが同じレベルで行えるよう全員がトレーニングを行った。実際に感染があったときは拡大することはなかった。訪問看護と情報を共有しながら対応の確認を行うことも行った。

- ・空床の期間を短くし年間平均稼働率 97%以上を確保し事業の安定化を図る

稼働率 92.8% 目標数値に達することは出来なかった。

退居者 4 名 入居者 2 名 毎月入院者があり稼働率 100%の月がなく安定した稼働とはならなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1													
要支援 2													
要介護 1	3	3	3	3	3	2	2	3	3	4	4	4	3.1
要介護 2	6	6	6	6	6	7	7	7	7	6	5	5	6.2
要介護 3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
要介護 4	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.7
要介護 5	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3.5
合計	18	18	18	18	18	18	17	18	17	17	16	16	17.4
男性	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	0	1.3
女性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16.0

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	79	80	90	93	93	45	45	90	93	124	89	120	1,041
要介護 2	180	186	177	155	168	210	217	210	200	157	140	155	2,155
要介護 3	120	124	107	114	113	120	124	120	124	124	112	124	1,426
要介護 4	30	31	30	31	31	2	22	23	0	0	0	0	200
要介護 5	120	124	120	124	124	116	93	90	93	93	84	93	1,274
合計	529	545	524	517	529	493	501	533	510	498	425	492	6,096
月平均延べ入居者数												508.0	
年間稼働率												92.8%	
平均介護度												2.74	

特別養護老人ホーム 自由の杜

【事業基本方針】

入居者一人ひとりの思いを大切に、毎日の生活が笑顔あふれる暮らしになるよう支援する。
明るく家庭的な雰囲気を作り入居者にとって暮らしの継続となるよう支援する。

入居者一人ひとりの尊厳を守り、生活の継続を支援する。

入居者一人ひとりが穏やかで楽しく笑いが堪えない日々の生活を送れるように支援する。

法人理念『人の為に走れ』・施設理念『笑顔あふれる暮らし～あなたに会えてよかった～』

ユニットケア理念『暮らしの継続』を行動指針とし常に入居者とともに邁進する。

【目的】

入居者一人ひとりの特色を理解し、今までの暮らし・習慣を継続しつつ、施設サービス計画書を基にその人らしい生活が実現できるように援助する。

思いを汲み取り笑顔を引き出して、その人らしい生活が実現できるよう支援する。

家族の思いにも耳を傾け、連携していくことで笑顔あふれる毎日を過ごすよう支援する。

入居者一人ひとり、身体的・精神的状態が違いう中で、その人にあったライフスタイルを見極め、適切な介助・支援を行っていく。そのために職員の技術、意識の向上を目指す。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	2名	4名	3名
女性	11名	8名	8名
合計	13名	12名	11名

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度：4.31

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	－	1名	1名	1名	3名
女性	－	－	2名	13名	11名	26名
合計	－	－	3名	14名	12名	29名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：90.0歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	1名	1名	1名	3名
女性	－	－	－	10名	16名	26名
合計	－	－	1名	11名	17名	29名

【具体的事業報告】

介護現場の生産性向上を目的とした見守り支援システムやインカム等の活用により、職員の精神的及び身体的負担の軽減を図った。

災害時に人命安全確保ならびに被害の極限防止を図ることを目的に、5月（日中想定）と10月（夜間想定）に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 介護部門

- ・入居者、職員が共に穏やかに過ごせる生活空間作りに努めた。
- ・日々の関わりの重視、職員同士の連携強化で入居者のその人らしい生活を支えた。
- ・気配りや優しさを持ち、笑顔で穏やかに過ごすことができるユニットケアを実践した。

2. 医務部門

- ・入居者一人ひとりのニーズに応じたケアが多職種連携により継続できるよう支援した。

3. 栄養部門

- ・入居者個々人の状況に合わせ、安全に美味しく食べて頂けるような食事を提供した。

4. 歯科部門

- ・入居者の口腔状況を把握し、安全かつ適切な口腔ケアを実施した。

5. 生活相談部門

- ・職場環境の健全化の推進に努めた。
- ・年間稼働率95.0%という結果で、目標とした98%以上の確保には至らなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 3	5	6	5	4	4	4	2	3	3	4	4	3	3.9
要介護 4	12	12	13	14	14	11	12	12	13	13	12	14	12.7
要介護 5	12	10	11	11	11	14	12	14	14	12	12	12	12.1
合計	29	28	29	29	29	29	26	29	30	29	28	29	28.7
男性	5	4	4	4	4	5	4	5	5	4	3	3	4.2
女性	24	24	25	25	25	24	22	24	25	25	25	26	24.5

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 3	150	179	150	124	124	116	62	78	93	124	112	93	1,405
要介護 4	357	372	388	434	428	325	362	356	381	345	317	432	4,497
要介護 5	345	310	330	341	341	346	358	395	411	372	336	372	4,257
合計	852	861	868	899	893	787	782	829	885	841	765	897	10,159
月平均延べ利用者数													846.6
年間稼働率													96.0%
平均介護度													4.28

ショートステイ 自由の杜

【事業基本方針】

「在宅」という基盤を基に、ご本人・ご家族の意向に沿ったサービスを総合的に提供することで1人の人として社会生活を営むことができるように支援を目指す。

地域に根差し、密着したサービス拠点として、地域や家庭との結びつきを重視し安心して生活できるよう支援する。

【目的】

利用者個人に寄り添い、入居された時と同じ状態・状況で帰って頂けるように支援する。

居宅での生活そのままに利用中の生活との連続性に配慮し、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごして頂けるように支援する。

【具体的事業報告】

介護現場の生産性向上を目的とした見守り支援システムやインカム等の活用により、職員の精神的及び身体的負担の軽減を図った。

災害時に人命安全確保ならびに被害の極限防止を図ることを目的に、5月（日中想定）と10月（夜間想定）に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 介護部門

- ・利用者及び職員が笑顔で過ごせる雰囲気作りに励み、利用者獲得に努めた。

2. 医務部門

- ・利用者一人ひとりのニーズに応じたケアが多職種連携により継続できるよう支援した。

3. 栄養部門

- ・利用者個々人の状況に合わせ、安全に美味しく食べて頂けるような食事を提供した。

4. 生活相談部門

- ・職場環境の健全化の推進に努めた。
- ・年間稼働率80.4%という結果で、目標とした90%以上の確保には至らなかった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	2	1	2	1	1	1	1	1	0	1	2	1.1
要支援 2	1	1	0	0	1	2	1	0	1	2	0	0	0.8
要介護 1	8	11	7	7	13	9	8	9	8	6	7	10	8.6
要介護 2	9	8	10	12	7	8	8	6	12	8	9	7	8.7
要介護 3	8	9	9	10	7	7	7	7	5	5	7	7	7.3
要介護 4	3	3	3	3	3	2	2	2	4	5	4	3	3.1
要介護 5	3	2	1	1	1	1	2	2		1	2	1	1.5
合計	32	36	31	35	33	30	29	27	31	27	30	30	30.9
男性	11	11	8	10	10	8	6	6	9	5	5	7	8.0
女性	21	25	23	25	23	22	23	21	22	22	25	23	22.9

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	13	10	7	15	3	3	3	4	0	3	8	69
要支援 2	9	4	0	0	1	12	2	0	2	11	0	0	41
要介護 1	59	68	80	58	106	107	90	83	68	57	71	89	936
要介護 2	34	35	44	61	59	40	52	41	91	64	73	61	655
要介護 3	97	103	86	115	86	83	80	61	49	61	49	52	922
要介護 4	27	11	16	19	18	15	13	14	37	48	29	15	262
要介護 5	33	42	11	14	5	10	16	11	0	5	11	8	166
合計	259	276	247	274	290	270	256	213	251	246	236	233	3,051
月平均延べ利用者数													254.3
年間稼働率													83.6%
平均介護度													2.22

グループホーム 自由の杜

【事業基本方針】

運営の方針

同じ屋根の下、

1. 喜 … 共に喜び
2. 怒 … たまには怒ったり
3. 哀 … 哀しいときには傍に寄り添い
4. 楽 … 毎日楽しく笑いあえるような

そんな『あたりまえ』の生活が感じられるように支援する。

私たち介護スタッフも自分の家族を入居させたい、そんな「家創り」を目指していく。

【目的】

入居者・ご家族・スタッフで「慣れ親しんだ関係」を創り上げ、「思ひ出創り」を積み重ねる。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居
男性	1名	1名
女性	1名	1名
合計	2名	2名

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度：3.33

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	1名	－	－	1名	2名
女性	1名	1名	2名	1名	2名	7名
合計	1名	2名	2名	1名	3名	9名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：90.6歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	－	－	2名	2名
女性	－	－	－	5名	2名	7名
合計	－	－	－	5名	4名	9名

【具体的事業報告】

1. 利用者一人ひとりと向き合い、思い・夢・希望を踏まえ、それぞれに合った関わり方を考えながら、その人らしいプランでチームケアを行った。また、利用者のアセスメントを通して、強みの発見を行い、プライドを保って生活して頂けるよう支援した。
2. 質の高い介護を提供できるように、職員一人ひとりのスキルアップや得意分野を発揮できる「チームの輪」を大切にし、やりがいのもてる職場づくりを行った。
3. 医療との連携をスムーズに保ち、入居者の日々の変化を見逃さず、危険を未然に防ぐ早期発見に努め、予測と予防をふまえた介護を実施した。
4. 施設行事には「地域の方たちが参加」、地域行事には「利用者の方たちが参加」でき、顔なじみの関係をつくりながら、「いつでも来てください」と言えるホームであるようにした。
5. 季節を感じる外出行事やホーム行事を毎月企画、提供しながら、充実した笑顔あふれる毎日を感じていただいた。(喜)
6. 共同生活を送る中で、お互いがケンカになりそうになっても、直ぐに和める顔なじみの関係・環境を整えた。(怒)
7. 時には寂しい気持ちや切ない気持ちになっても、その心に寄り添った。(哀)
8. 利用者・職員・家族と会話を多く持ち、一緒に思い出をたくさん創っていただきながら、温かな輪を築いた。(喜、楽)
9. 災害時に人命安全確保ならびに被害の極限防止を図ることを目的に、5月(日中想定)と10月(夜間想定)に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 入居者と職員が家族のように当たり前の生活が送れるように支援した。
2. 年間稼働率 97.4%という結果で、目標とした 98%以上の確保には至らなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0.5
要介護 2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2.4
要介護 3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要介護 4	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.7
要介護 5	3	3	3	3	3	3	1	1	2	2	2	2	2.3
合 計	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	8.9
男 性	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1.9
女 性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7.0

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要介護 1	0	0	0	0	0	0	17	30	31	31	28	31	168	
要介護 2	60	62	60	62	62	60	62	80	93	93	84	93	871	
要介護 3	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730	
要介護 4	60	62	60	62	62	60	62	60	31	31	28	31	609	
要介護 5	90	93	90	93	93	76	31	30	62	62	56	62	838	
合 計	270	279	270	279	279	256	234	260	279	279	252	279	3,216	
													月平均延べ入居者数	268.0
													年間稼働率	97.9%
													平均介護度	3.33

特別養護老人ホーム Filage 開出

【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指すものとする。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

【目的】

入居者一人ひとりの個性を尊重するため、施設の居室（個室）を10人程度のグループに分け、それぞれを一つのユニットとし、ユニットごとに食事・入浴・施設内の行事などの日常生活を送り少人数の家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケアすることを目的とした。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	－	1名	1名
女性	5名	3名	3名
合計	5名	4名	4名

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度：4.10

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	－	－	1名	3名	4名
女性	－	1名	8名	6名	10名	25名
合計	－	1名	8名	7名	13名	29名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：88.5歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	1名	1名	1名	1名	4名
女性	－	－	3名	7名	15名	25名
合計	－	1名	4名	8名	16名	29名

【具体的事業報告】

介護現場の生産性向上を目的とした見守り支援システムやインカム等の活用により、職員の精神的及び身体的負担の軽減を図った。

共助の取組みとして、6月に自治会との合同防災訓練を実施し、自助の取組みとして、7月（日中想定）と11月（夜間想定）に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 介護部門

- ・入居者、職員相互話しやすい環境を整備し、安全で楽しく生活できるユニットを築いた。
- ・入居者の心に寄り添い、あたたかく穏やかな雰囲気与生活できるユニットを築いた。
- ・入居者個々人のニーズを正しく把握し、個別ケアの充実化を図った。

2. 医務部門

- ・多職種で情報共有を図り、個別性のあるケアの実践と看取り介護の充実化を図った。

3. 栄養部門

- ・安心・安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けられるように支援した。

4. 歯科部門

- ・入居者の口腔状況を把握し、安全かつ適切な口腔ケアを実施した。

5. 生活相談部門

- ・家族や外部、多職種との連携を図り状況把握と状況判断に努め、柔軟な対応を実践した。
- ・年間稼働率97.8%という結果で、目標とした98%以上の確保には至らなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 3	6	5	5	5	5	4	5	5	5	7	7	7	5.5
要介護 4	8	7	7	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7.3
要介護 5	14	16	15	15	15	16	16	15	16	15	14	14	15.1
合計	29	29	28	29	29	29	29	28	29	30	29	29	28.9
男性	5	5	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4.2
女性	24	24	24	25	25	25	25	25	25	26	25	25	24.8

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要介護 2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
要介護 3	180	155	150	155	155	120	155	150	155	204	196	217	1,992	
要介護 4	238	193	210	233	248	235	217	210	217	197	196	210	2,604	
要介護 5	411	470	450	464	459	480	487	438	459	447	392	434	5,391	
合計	859	849	840	883	893	865	890	828	862	879	812	892	10,352	
													月平均延べ利用者数	862.7
													年間稼働率	97.8%
													平均介護度	4.26

ショートステイ Filage 開出

【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じて、自律した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行うこととする。
3. 相当期間以上にわたり継続して利用する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行うこととする。
4. 地域との結びつきを重視して県・市・居宅介護支援事業者・その他の居宅サービス事業者、そして保健・医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

【目的】

社会的孤立感の解消、心身機能の維持・向上を図ると共に、家族の身体的精神的負担を軽減することを目的とした。

【具体的事業報告】

介護現場の生産性向上を目的とした見守り支援システムやインカム等の活用により、職員の精神的及び身体的負担の軽減を図った。

共助の取組みとして、6月に自治会との合同防災訓練を実施し、自助の取組みとして、7月に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 介護部門
 - ・利用者が安心して過ごすことができ、利用中の様子を家族とも共有する等、選ばれるショートステイを目指す。
 - ・利用者が安心して過ごすことができ、利用中の様子を家族とも共有する等、選ばれるショートステイを目指した。
2. 医務部門
 - ・多職種で情報共有を図り、個別性のあるケアの実践と看取り介護の充実化を図る。
 - ・多職種で情報共有を図り、個別性のあるケアの実践を図った。
3. 栄養部門
 - ・安心・安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けられるように支援する。

- ・安心・安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けられるように支援した。

4. 生活相談部門

- ・家族や外部・多職種との連携を図り、状況把握と状況判断に努め、柔軟な対応ができるようにする。
- ・家族や外部・多職種との連携を図り、状況把握と状況判断に努め、柔軟な対応を実践した。
- ・目標数値の年間稼働率 90%以上を確保でき、事業運営の安定化が図れた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	1	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0.7
要支援 2	2	1	0	1	2	1	1	2	1	1	1	2	1.3
要介護 1	10	8	9	9	10	7	6	10	8	11	11	12	9.3
要介護 2	12	13	17	14	15	19	14	16	15	17	13	16	15.1
要介護 3	7	6	6	7	9	6	5	7	8	7	7	5	6.7
要介護 4	5	6	6	6	7	5	8	6	8	7	6	6	6.3
要介護 5	5	5	3	3	4	3	4	3	2	3	2	3	3.3
合計	42	41	43	41	48	41	38	44	42	47	40	44	42.6
男性	8	10	10	9	10	11	9	12	9	13	11	10	10.2
女性	34	31	33	32	38	30	29	32	33	34	29	34	32.4

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	2	7	5	2	2	0	0	0	0	6	0	0	24
要支援 2	7	3	0	2	6	5	5	12	2	10	5	8	65
要介護 1	48	51	53	34	50	35	47	43	36	49	53	72	571
要介護 2	56	59	98	69	106	124	91	92	91	109	91	109	1,095
要介護 3	79	76	76	93	66	61	35	54	71	42	43	43	739
要介護 4	52	43	41	35	33	29	52	50	43	46	30	32	486
要介護 5	29	36	24	25	32	26	29	24	24	28	19	32	328
合計	273	275	297	260	295	280	259	275	267	290	241	296	3,308
月平均延べ利用者数													275.7
年間稼働率													90.6%
平均介護度													2.40

グループホーム Filage 開出

【事業基本方針】

1. 認知症によって自律した生活が困難になった要支援・要介護状態の利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえ、入居者がその有する能力に応じ自律した日常生活を営むことができるよう、食事・入浴・排泄等の介護その他日常生活上の世話及び機能訓練等必要な援助を行う。
2. 入居者の認知症状の緩和や悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
3. 入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して支援する。
4. 市・地域包括支援センター・居宅介護支援事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

【目的】

“楽しい”運動をもとに、身体造り

“笑顔の”会話をもとに、心の安らぎを

“おいしい”食事をもとに、幸せな1日を

そして、寝る前に「今日は楽しかった・・・」と感じてもらえる

そんな“あたりまえな”暮らしを行えるように支援した。

今しかできない事、今だからできることを共に行った。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居
男性	1名	2名
女性	3名	2名
合計	4名	4名

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度：3.28

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	－	1名	－	1名	3名
女性	2名	1名	5名	5名	3名	15名
合計	2名	1名	6名	5名	4名	18名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：92.2歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	－	2名	－	3名
女性	－	－	－	4名	12名	15名
合計	－	－	－	6名	12名	18名

【具体的事業報告】

入居者が重度化するなか、入浴支援においては職員の身体的負担が増大していたが、新たにリフト浴を導入したことで、入居者は安心して入浴ができ、職員の腰痛予防対策も図ることができた。

共助の取組みとして、6月に自治会との合同防災訓練を実施し、自助の取組みとして、7月（日中想定）と11月（夜間想定）に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 介護部門

- ・利用者が安心して過ごすことができ、利用中の様子を家族とも共有する等、選ばれるショートステイを目指す。
- ・入居者一人ひとりのアセスメントを強化し、その人に合ったケアの提供を行った。
- ・各種ツールを活用しコミュニケーションの充実化を図り、職員間の連携強化に努めた。

2. 医務部門

- ・多職種で情報共有を図り、個別性のあるケアの実践と看取り介護の充実化を図る。

3. 栄養部門

- ・安心・安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けられるように支援する。

4. 生活相談部門

- ・家族や外部・多職種との連携を図り、状況把握と状況判断に努め、柔軟な対応ができるようにする。年間稼働率90%以上を確保し事業運営の安定化を図る。
- ・入院者が多く年間稼働率94.1%で、目標の98%以上の確保には至らなかった。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1.6
要介護 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1.8
要介護 3	7	7	7	7	8	8	8	8	7	7	7	7	7.3
要介護 4	5	5	5	5	4	3	3	3	4	3	3	4	3.9
要介護 5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3.2
合計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	18	17.8
男性	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	2	2	2.3
女性	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	15	16	15.6

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	30	31	30	31	31	43	62	60	62	62	56	62	560
要介護 2	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	28	31	671
要介護 3	210	217	210	217	248	240	248	240	217	193	177	215	2,632
要介護 4	150	155	150	143	104	90	93	90	118	93	84	124	1,394
要介護 5	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	112	124	1,154
合計	540	558	540	546	538	523	558	540	552	503	457	556	6,411
月平均延べ入居者数													534.3
年間稼働率													97.6%
平均介護度													3.29

デイサービスセンター Filage 開出

【事業基本方針】

1. 利用者がお世話を受ける受動的な存在におさまらず、各自が役割を持ち、自らの様々な能力や残存機能を発揮し、その存在意義を見出せるように支援を実施した。
2. 常に利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち、公正中立に努めた。
3. 利用者の住みやすい地域での暮らしを支えるために、医療機関や他の介護事業者、地域の住民等と連携し、利用者を支える地域連携の拠点としての機能を展開した。

【目的】

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活のお世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る事を目的とする。

【具体的事業報告】

運動トレーニングと機能トレーニングを組み合わせ、利用者の身体機能の維持だけでなく、向上を目指すトレーニングを実施するとともに、日常生活に直結した生活リハビリも実施し、在宅生活を継続できるよう支援した。また身体的トレーニングだけでなく、物理療法等を用いて身体に加え精神的な癒しやリフレッシュを図った。

余暇活動については、活動内容の選択肢を増やし、個々の意志を尊重したレクリエーションや趣味活動の充実を図った。

共助の取組みとして、6月に自治会との合同防災訓練を実施し、自助の取組みとして、7月に施設内で防災訓練を実施した。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 開設後10年経過しているため、施設のレイアウトや各種設備の変更等、ハード面の改善を図り、利用者の満足度向上を高める。
開設後10年経過しているため、施設のレイアウトや各種設備の変更等、ハード面の改善を図り、利用者の満足度向上に努めた。
2. 利用者が安全に入浴することができ、且つ職員の介護負担軽減に資することを目的として、入浴支援の見直しや研修等の実施を行う。

利用者が安全に入浴することができ、且つ職員の介護負担軽減に資することを目的として、入浴支援の見直しや研修等の実施を行った。

3. 利用者個々人のニーズに沿った余暇活動を組み入れ、サービスの充実化と利用者の意欲増進を図る。

利用者個々人のニーズに沿った余暇活動を組み入れ、サービスの充実化と利用者の意欲増進を図った。

4. 年間稼働率 75%以上（総合事業含）を目標として事業運営の安定化を図る。

目標数値の年間稼働率 75%以上を確保でき、事業運営の安定化が図れた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	30
要支援 1	7	6	6	5	5	5	4	4	5	5	6	6	64
要支援 2	7	8	8	7	7	6	7	7	7	7	6	6	83
小 計	16	16	16	14	15	14	14	14	15	15	14	14	177
要介護 1	39	37	36	36	36	39	41	42	42	38	38	38	462
要介護 2	22	24	28	29	26	24	25	26	25	23	25	25	302
要介護 3	4	5	3	5	4	5	7	7	9	9	9	9	76
要介護 4	7	8	7	9	10	8	8	8	9	8	7	7	96
要介護 5	3	4	4	4	3	2	3	3	3	3	3	3	38
小 計	75	78	78	83	79	78	84	86	88	81	82	82	974
実費利用	8	10	10	9	8	7	7	7	8	7	8	8	97
合 計	99	104	104	106	102	99	105	107	111	103	104	104	1,248

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業対象者	8	10	8	8	12	12	13	14	12	9	8	8	122	
要支援 1	28	23	25	19	14	15	15	13	18	15	19	18	222	
要支援 2	41	54	51	50	49	38	47	48	48	48	41	42	557	
小 計	77	87	84	77	75	65	75	75	78	72	68	68	901	
要介護 1	387	379	351	394	368	359	408	399	394	358	336	375	4,508	
要介護 2	238	247	227	238	242	241	249	254	221	196	204	243	2,800	
要介護 3	28	25	16	24	24	34	51	51	50	58	56	59	476	
要介護 4	67	79	71	108	86	88	83	70	91	61	62	52	918	
要介護 5	16	41	36	37	28	23	33	35	32	30	18	5	334	
小 計	736	771	701	801	748	745	824	809	788	703	676	734	9,036	
実費利用	42	48	52	47	43	39	43	42	43	40	43	46	528	
合 計	855	906	837	925	866	849	942	926	909	815	787	848	10,465	
													月平均延べ利用者数	872.1
													年 間 稼 働 率	74.1%
													平 均 介 護 度	1.55

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	3	2	4	4	4	2	6	0	3	1	2	2	2.8
体験利用	3	2	4	4	4	4	8	3	4	2	4	4	3.8

北地域包括支援センター

【事業基本方針】

介護保険法に規定される基準に従い、保健師等、主任介護支援専門員、社会福祉士、生活支援コーディネーター、自立支援コーディネーター等の専門職種を配置し、それぞれが専門分野での役割を担い、職員全員が連携して知識や技能を結集し、地域包括ケアの提供に向けて運営を行う。

地域住民が住み慣れた地域で、安心して尊厳ある生活を継続することができるように、介護保険事業や福祉事業等による公的サービスのみならず、その他のフォーマル・インフォーマルサービスによる多様な社会資源を活用できるように、包括的及び継続的に支援する。

防府市の北地区（佐波、右田、玉祖、小野）における介護・福祉行政の一翼を担う公的な機関として、公正で中立性の高い事業運営を行う。

【目的】

高齢者の心身の健康保持及び生活の安定に必要な援助を行うため、センターを日常生活圏域の中核機関として設置する。

【具体的事業報告】

① 総合相談対応事業

住民に身近な総合相談窓口として信頼を得られるよう、親切丁寧な対応に努めた。

複合的課題を抱えている利用者やご家族、支援が困難な利用者に対しては、行政機関や他関係機関、地区の民生委員・福祉員・ゆうあい訪問員等と連携を密にとり対応した。

経済的困窮や触法高齢者の支援に関して他制度の支援窓口と協働し自立に向けての支援に努めた。

地域包括支援センターに関して、地域住民への講座や民生委員協議会への参加を通して普及啓発活動を行った。

② 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防に対する取り組みを高齢者が自主的・継続的に行えるように意欲の向上を図るとともに、必要な知識の普及啓発に努めた。

また、予防に関して積極的に取り組み、地域のサロン、住民の活動についての情報提供を行い、要支援・要介護の重度化の抑制・自立支援の視点に立った介護予防サービス計画の作成を行った。

短期集中予防型サービスについては利用者の参加・同意を得て、通所施設やリハビリ専門職、栄養士、薬剤師等と協力をしながら、「地域で今まで通りの生活を継続する」を目標に支援し

てきた。短期集中予防型通所サービスを卒業した方々について介護予防手帳を交付し、1年間のフォローアップを継続している。

介護サービスに頼らず元の生活に戻ること、高齢者の力を信じてポジティブフィードバックを行い、元の生活に戻れてよかったと実感できる体制が作れるよう、リハビリ専門職とも協働し引き続き支援を行う。

③ 権利擁護事業

虐待対応や権利擁護についての相談に関しては、各機関と協力体制をとり利用者が安心して生活できるように終結を視野に入れて相談支援を行う。

被虐待者だけの支援だけでなく養護者支援に力を入れ虐待の連鎖が起こらない様努めた。また、必要な方には成年後見制度につなげ利用者の権利を守る対応を行った。

市や地域関係団体と連携を深め、虐待の早期発見や見守り・相談支援に努めた。また、成年後見制度や虐待防止に関する研修に参加し、知識の向上に努めた。

虐待対応を行ったケースを基に支援の方向性について、事業所内での情報共有を行い、知識の習得を行った。

④ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

サービス調整が難しい対象者に対し、ケアマネージャーやサービス提供事業者と随時同行訪問を行う事で、ケースの把握・支援課題の明確化に努めた。

ケアマネージャーの後方支援として地域ケア会議を開催するとともに支援方針を明確にし、役割分担を行いながら支援の継続・モニタリングを実施した。

⑤ 地域ケア会議の開催

複合的問題を抱える高齢者世帯、サービスが上手く導入できない対象者世帯に対して「個別地域ケア会議」を開催し、各機関と役割分担・協働を行い支援を継続している。

高齢者の自立を促し、自分らしい生活を取り戻してもらうため自立支援型地域ケア会議に月1回参加し、事業所として毎回1事例の提供を継続して行っている。

⑥ 生活支援コーディネーター

専任の生活支援コーディネーターを配置し、社会資源の開発や地域の元気アップ体操の場づくりを行った。住民主体の活動を支援することで、地域の介護予防となり、地域の方々から困りごとの情報も入ってくるようになった。地域のインフォーマルサービス情報についても各機関に向けて発信を行った。

⑦ 自立支援コーディネーター

自立支援コーディネーターを配置し、自立支援型地域ケア会議の運営、短期集中予防型サービスにかかるリハビリ専門職との同行訪問、事業所内の拠点会議を随時開催している。個別事例を通してその人の自立支援とは何かを考え、生活支援コーディネーターや担当ケアマネと情報を共有しながら、「その人らしい暮らし」に向けて支援を継続している。

【令和6年度の状況・評価】

市の委託業務を受け、個別の総合相談対応や地域づくり、関係機関とのネットワーク構築に努めた。支援の必要な高齢者を自立支援を目標に掲げ適切なサービスに繋げること、介護予防にも力を入れ、地域包括としての認知度も向上したと考える。

認知症高齢者の相談に関して、認知症疾患センター等と連携を取り地域で自分らしく暮らせるよう本人・家族支援、近隣の方へ対応方法の周知、サービス事業者との連携を行ってきた。

利用者のアセスメント、リハ職アセスメントを多職種協働で行い、必要に応じて短期集中予防型サービスへの調整を行った。利用者の自立支援とは何かを包括内で共有し、実際の支援の視点に役立てている。

包括内での職種別主催の勉強会、拠点会議を通し、職員間の知識や利用者支援の方向性の統一を行ってきた。自立支援コーディネーターを中心として、利用者の自立支援に向けてさらに深化させたいと考える。

防災訓練については事業所内で机上訓練を5月に実施。指針の確認を行った。また、地域と合同で8月、2月に地域の防災訓練に参加するとともに防災研修を実施した。

生活支援コーディネーターとして、生活支援コーディネーターを中心に、地域の介護予防啓発に努め、住民主体の活動の支援を継続している。

今後も地域のネットワーク作りの強化を行い、実態把握や地域包括支援センターの周知を行うことで、状況に応じた切れ目のない相談支援体制構築を行う。

【令和6年度目標の達成状況】

地域包括支援センター周知活動を行い、本人、関係者が相談しやすい環境を整備する。

地域の支援者会議へ参加するとともに、地域で行われる講座にて包括支援センターの役割、仕事内容などの周知を行った。また、電話・来所・訪問を軸として受付を行い、本人・家族の希望を踏まえて相談体制を整えた。窓口時間外でも転送電話での相談対応、時間外の訪問など緊急性に合わせて対応を行った。

地域の関係者、関係機関、サービス事業所等と顔の見える関係作りを行い、自立支援を目的とした適切なサービス利用を推進していく。

地域の防災訓練への参加や自治会、通いの場へ訪問することにより、地域の方々との顔の見える関係づくりに力を注いだ。

高齢者が住み慣れた地域で生活を送ることが続けられるように、自立支援型地域ケア会議や民生委員児童委員地区会議・小地域ふれあい活動の場等を通じ、地域が抱える課題の把握に

努め、地域包括ケアシステム構築に取り組む。

月 1 回の自立支援型地域ケア会議へ事例提供や参加を行い、民生委員協議会への対応事例紹介等を通して地域の支援者と協働することにより地域の課題の把握に努めた。

利用者の自立支援の取り組みを支援する。

リハ職アセスメントなど多職種と協働し、利用者の思いを引き出し、望んでいる生活をアセスメントしていくことで、多面的に利用者を理解することに努めた。

生活に対する目標を明らかにし、ポジティブフィードバックを通じて目標達成度を高めることが出来た。

令和6年度実績表

・総合相談件数

(単位 件)

相談方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話	126	129	138	131	121	140	141	111	143	163	172	167	1,682
訪問	69	97	86	96	60	77	97	98	83	101	105	95	1,064
来所	15	24	16	19	22	24	24	6	30	18	20	19	237
その他	5	5	9	12	0	12	7	5	13	13	3	3	87
計	215	255	249	258	203	253	269	220	269	295	300	284	3,070

*その他：事業所との連絡調整等協議

・総合相談内容実績内訳（複数記入）

(単位 件)

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
認知症（疑い含む）	51	45	49	72	39	47	71	60	58	58	46	37	633
障害（精神・知的）分野の相談	1	4	8	5	4	1	5	0	11	9	6	13	67
障害（身体）分野の相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
介護保険に関すること（代行申請含む）	89	107	94	107	88	94	111	116	118	128	156	128	1,336
介護・ケアの内容に関すること	14	24	18	15	12	11	16	20	30	37	25	24	246
ケアマネージャ紹介	2	7	6	3	5	1	2	11	8	15	14	16	90
介護予防・生活支援に関すること	34	44	34	50	29	26	39	12	24	44	56	64	456
医療に関すること	15	35	28	17	18	23	32	16	38	23	17	20	282
虐待（疑い含む）	0	0	8	2	0	4	11	12	15	9	0	2	63
成年後見制度の活用	1	0	0	13	9	1	4	5	1	1	2	14	51
自費・インフォーマルサービス等に関すること	3	9	9	9	11	21	9	7	10	11	15	16	130
施設に関すること	15	18	10	14	12	4	11	11	20	15	14	24	168
経済的な問題	8	16	14	14	4	28	31	29	34	37	44	13	272
高齢者の身元問い合わせ	1	0	3	0	1	1	0	1	4	1	1	1	14
アルコール問題にかかわること	0	9	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	15
介護サービス・事業所職員等の苦情	4	4	0	0	0	3	6	0	0	0	1	1	19
その他	31	39	41	47	44	60	45	24	31	47	60	34	503
計	269	361	322	368	276	325	395	326	403	439	457	407	4,348

・介護予防支援・介護予防ケアマネジメント訪問件数

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	186	173	164	173	158	147	169	139	152	152	141	125	1,879

・要支援1・2と認定された方のケアプラン件数（給付管理の対象となった件数）

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	114	112	110	112	109	113	108	107	109	109	104	106	1,313
要支援2	153	151	143	140	135	130	132	134	143	138	141	145	1,685
事業対象者	51	49	51	49	48	46	43	46	43	39	41	40	546
計	318	312	304	301	292	289	283	287	295	286	286	291	3,544
うち委託件数	83	82	79	77	72	64	65	64	67	66	67	71	857

・介護予防支援・ケアマネジメント内訳

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護予防給付	198	195	189	187	187	183	183	182	185	185	186	189	2,249
総合事業	121	117	116	114	105	106	101	105	110	101	100	102	1,298

圏域地区講話

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
佐波	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
右田	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	6
小野	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2

・運営推進会議

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
なんてんデイ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
スワン	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
サンコープデイ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
スマイル創	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4

民生委員協議会 右田・玉祖地区:2回、小野地区:2回、佐波地区:2回

あいおい苑 居宅介護支援事業所

【事業基本方針】

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と、周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。

【目的】

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズを把握し、専門職として代弁できるように支援する。

【具体的事業報告】

1. 利用者が望むべき在宅生活を送れるよう、必要なサービスや社会資源の中から自己選択できるようにしていく。
A：利用者や家族が望む在宅生活を聞き取り、アセスメントを繰り返しながら必要なサービスや社会資源の提供をして自己選択できるように丁寧に対応した。
2. 市・地域包括支援センター・民生委員・医療機関・介護保険施設・障害者特定相談支援事業者などとの連携を図り、利用者を包括的に支えていけるよう、体制の一翼を担う。
A：各関連機関との連携を密に図りながら、利用者と家族を包括的に支えて行けるように必要な体制の一翼を担える対応をした。
3. 新規利用者を継続的に獲得し、担当それぞれの件数の増加、運営基準遵守を意識しながら自法人の在宅・施設サービス利用率や空床利用につなげていく。
A：新規利用者や特定事業所として緊急対応が必要な利用者への調整対応を引き継ぎ、運営基準遵守を意識しながら、件数の増加へつなげる対応をした。
4. 自己知識・技術の向上を図れるよう各種研修に意欲的に参加、また参加した後には毎週開催する事業所内会議においてフィードバックを行いそれぞれがスキルアップを目指していく。
A：医療や障害やヤングケアラーや防災等の介護保険以外の研修にも積極的に参加して自己知識・技術の向上を図れるよう意欲的に研修参加しスキルアップにつなげてきた。

【令和6年度の状況・評価】

新規は年間38件で月平均3件の獲得を行い、各包括からの依頼も多く協働で動くことで各関連機関と信頼関係の強化ができた。また利用者や家族の意向を尊重し住み慣れた地域で自立した生活ができるように利用者の立場にたった支援を行った。

防災訓練については事業所内で8月にBCP訓練の机上訓練を実施し、内閣府の防災情報のページ内の震度6強体験シミュレーションを確認し、12月に感染症訓練の机上訓練を実施し、公用車に個人用防護具（PPE）を準備し急な対応に備えた。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 特定事業所として果たすべき機能と役割を把握し、法令を遵守しながら、誠実迅速に業務を行うことで信頼度の向上、新規ケースの積極的な受け入れにつなげていく。
A: 特定事業所として緊急対応が必要な利用者への調整対応を積極的に引き継ぎ、法令を遵守しながら、新規は年間38件で月平均3件のケースを獲得し、件数の増加へつなげる対応をした。
2. 多様化・複雑化する課題に対応するため、ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等に参加して、医療・介護連携を積極的に取り組み、迅速な対応ができるよう自己研鑽に努める。
A: 中重度者や支援困難ケース、医療・介護連携を積極的に取り組み、迅速な対応がとれるよう、医療や障害やヤングケアラーや防災等の多種多様な研修にも積極的に参加して自己知識・技術の向上が図れるよう意欲的に研修参加しスキルアップにつなげてきた。
3. 介護予防や自立支援、重度化防止に資するケアマネジメントの強化が求められているため、住み慣れた地域で利用者の視点に立った生きがいづくりや自己実現に取り組み、QOL向上等のための介護予防ケアマネジメントの現状と課題に対応できるよう、多職種連携に努める。
A: 医療・介護・福祉ニーズが多様化・高度化している中、各サービス事業所や各関連機関との多職種との相談・調整・連携・協力しながら、利用者や家族への支援をしてきた。またインフォーマルサービスや地域の民生委員等と連携しながら対応してきた。新規は年間38件で月平均3件の獲得を行い、各包括からの依頼も多く協働で動くことで各関連機関と信頼関係の強化ができた。また利用者や家族の意向を尊重し住み慣れた地域で自立した生活ができるように利用者の立場にたった支援を行った。

介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	5	4	4	4	4	4	4	3	2	2	1	1	3.2
要支援 2	12	11	9	9	9	9	9	9	10	10	10	12	9.9
総合事業	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4.3
小計	20	19	17	17	17	17	17	16	17	17	16	18	17.3
要介護 1	56	55	54	54	58	55	54	52	51	50	49	49	53.1
要介護 2	20	19	20	23	20	18	19	20	22	21	23	23	20.7
要介護 3	14	15	12	13	12	12	12	11	11	11	13	14	12.5
要介護 4	12	13	13	12	12	11	11	10	11	10	7	7	10.8
要介護 5	5	5	5	6	6	5	5	5	4	4	4	3	4.8
小計	107	107	104	108	108	101	101	98	99	96	96	96	101.8
合計	127	126	121	125	125	118	118	114	116	113	112	114	119.1
年間利用者数												1,429	

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
防府市	5	9	3	8	5	7	8	6	4	4	5	3	5.6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

3520円/1件

3300円/1件

生活介護事業所 トイロ

【事業基本方針】

- ・利用者が地域社会の中で、それぞれの強みを生かした役割を持てるよう支援する。
- ・様々な経験をする機会を提供し、生涯を通じ経験を重ねていけるよう支援する。
- ・ライフステージに応じた、利用者の生活全体を見据えた適切な支援をすることによって将来にわたり利用者を支える。
- ・障害者が地域社会と接する機会を増やすことで、新たな価値観をつくり、子供から障害者、高齢者まで誰もが暮らしやすく、良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

【目的】

誰もが地域社会の中で役割を持ちながら、その人らしい生活が営めるよう、日中に集い、活動できる場を提供し、地域での生活を支える。

障害の有無に関わらず、誰もが互いを認め合いながら、それぞれの良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

事業所が地域にあることによる、地域の活性化を目指す。

【利用者の状況報告】

- ・強度行動障害の利用者の利用希望が増えてきている。
- ・同じ利用者でも、年数が経つにつれて状況も変わってきて、必要な支援も変わってきている。

【具体的事業報告】

- ・毎年一人ずつの強度行動障害の研修受講を重ね、再度基本的な支援の在り方や方法を再確認した。強度行動障害に関する新たな加算取得をすることができた。
- ・管内幼稚園さんの方から幼稚園で開催されるマルシェに呼んでいただいて初出店した。トイロの野菜と自主製品を販売した。
- ・竹・福・商連携として、竹炭をの生産、販売をされている会社と協働し、放置竹林の竹を使った竹炭を畑に撒き、土壌改良しサツマイモを栽培、商品化し、販売に至る。

【令和6年度の状況・評価】

- ・新たに強度行動障害に関する加算取得の体制がとれ、収入増につながった。
また、加算取得のために支援の仕方を再確認、日々記録を重ねていくことで、支援に

対しての振り返りの機会となった。

- ・夏の猛暑が夏野菜の栽培にかなり影響し、直売所や管内幼稚園など外部に出荷することがほとんどできなかった。そのような状況の中で管内幼稚園から声をかけていただいた。販売にうかがえない時期があっても、これまでの関わりの積み重ねで、トイロのことを思い出していただけることを感じた。
- ・初の試みで、地域の会社から声をかけていただき、商品化を目指してのサツマイモの栽培、販売を行った。収穫までの過程で、会社の方が手伝い来てくださって、利用者と作業してくださる場面もあり、また地域との接点が増えた。利用者のご家族もとても喜ばれていた。
- ・5月に避難訓練実施。

【令和6年度目標の達成状況】

1. 重度の利用者も安全に過ごすことができる見守り体制の強化

春から更に強度行動障害の利用者も増え、環境の作り方、見守りのしかたにより工夫が必要となった。それぞれの特性がぶつからないような工夫した。
物を置く位置などをルール化し、トラブルが起こらないよう心掛けた。
見守りが必要なところをピックアップし、確実に見守りができる体制を作った。

2. 地域に喜ばれる自主製品の開発、販売

点字新聞を利用した点字バッグは地域の方にとっても喜んでいただけており、新たな主力の自主製品となった。開発にあたっては、自主製品を置いていただいている地域のお店に意見をもらい、一緒に作り上げることができた。

3. これまでの実績を生かした安心、安全な野菜作り

山口市有機農業推進協議会の認証シールを貼るにあたって、一定の基準をクリアすることが求められ、基準を意識して栽培を行った。協議会のメンバーとも協力しながら、基準を守っていけるよう努めている。

4. 特性に応じた支援力の強化

強度行動障害支援者養成研修を受講した後に、実際に支援手順書に沿った支援をし、記録を行っていった。実際に記録をしていくことによって、以前との違いや支援によって

落ち着いて過ごしていることなど、新たに気づきを得ることができ、支援の更なるブラッシュアップにつながっている。

支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分3	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	7
区分4	6	5	6	6	5	5	4	4	5	4	4	4	58
区分5	10	9	10	10	11	11	11	11	10	10	12	11	126
区分6	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	122
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	28	26	27	27	28	28	27	26	27	26	28	27	325

支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	19	18	12	20	16	16	16	18	10	10	16	17	188
区分3	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	7
区分4	34	30	23	36	27	28	34	32	33	33	32	38	380
区分5	78	71	54	78	81	76	89	79	78	72	70	74	900
区分6	82	80	64	71	78	73	86	78	74	68	70	82	906
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	214	200	153	205	203	194	226	207	196	184	188	211	2,381
												月平均延べ利用者数	198.4
												年間稼働率	30.5%

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
体験利用	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

共同生活援助 ひとつの会ホーム

【事業基本方針】

- ・地域の中に障害者も当たり前の「暮らしの場」を持つ
- ・地域の中で役割を持ち、地域の一住民として生活できるよう支援する
- ・障害特性に応じた支援を行い、それぞれの利用者にとっての自立を目指す
- ・地域住民と共に暮らすことにより、障害者の暮らしを地域に向けて発信していく機会とする

【目的】

障害者が、当たり前で地域で暮らすことを実現できるよう、利用者、地域住民双方に働きかけを行っていく。障害者も含め、様々な人が暮らしやすい街を作ることができるよう、障害者の暮らしを通して社会に対し発信、提案を行う。

【入居者の状況報告】

- ・利用者の入れ替えなし。
- ・物価の高騰で、休日の食事や生活費など金銭面で苦慮している。
- ・通所先を変更するなどの動きが見られた。

【具体的事業報告】

- ・物価の高騰で、食費がかなり上がっている。年明けあたりからは米の確保が難しくなり、価格も高くなる。購入していた農家も在庫がないとのことで購入先を新たにあたることとなる。
- ・利用者の小遣いの使い方も、物価の高騰で変わってきており、より節約していく方向の支援を行った。
- ・事業所を辞めて変更する等、日中活動の場が変わる利用者が多かった。

【令和6年度の状況・評価】

- ・物価高騰や米の不足に関しては、まとめた購入や、購入先の再検討など行った。米の不足については、新たな購入先の検討など行い、少しでも安い米を確保することができた。
- ・物価の高騰で、利用者個人が自由に使える生活費も減っている。不満は募るが、なるべく利用者それぞれが納得でき、今後も持続可能な金銭管理の計画を立て、それに沿った支援を行った。
- ・日中活動の場が変わり、環境の変化がある中で、落ち着いて生活できるように見通しが

持てるような情報提供、落ち着けるような声掛けなど行った。関係機関と連携しながら、本人が新しい環境でも落ち着いて過ごせる支援が行えた。

- ・ 8月に避難訓練実施。

【令和6年度目標の達成状況】

1.地域との更なる連携

地域の食堂と連携し、利用者の休日の食事提供を行った。金銭管理が難しい利用者で、GHの従来の職員体制では休日の食事面のフォローが難しかったが、連携していくことによって安心できる休日の体制を作ることができた。

地域と連携することによって、GHの職員の立場ではできないような関りをさせていただくこともでき、支援の幅が広がったと感じる。

2.利用者が利用している各制度への理解を深め支援に生かす

日常生活自立支援事業を利用している利用者について、制度を利用するようになった背景から、制度の内容、それぞれの利用者の利用の実態を情報提供し、理解を深めた。

制度を利用しながら、それぞれの利用者の特性に応じて、どのように支援していくのかを研修を通じて考えた。

生活保護を受給し始めた利用者もあり、生活保護の制度について知り、生活保護を受け始めるにあっての生活の再構築、生活を続けていくための工夫、支援について理解を深めた。

制度理解を少しずつ深めていくことによって、より利用者の生活に深く関わることができるようになった。

3.持続可能なGHの運営の在り方、業務時間や内容の再構築

夜の時間帯に関しては、夕食作りから配布までを一人で行う日と、早めの時間から夕食作りをする職員、後から配布する職員二人で行う日を作った。

それによって、それぞれが無理なく、勤務可能な時間に勤務することができ、勤務時間帯を埋めていくことができるようになった。

時間帯を何種類も用意し、さらに昨年度からの食堂からの食事提供の日もあることで、様々な事情の職員が勤務しやすくなった。

調理以外の時間は、利用者個々の話をゆっくり聞くこともでき、話を聞いてほしい利用者のニーズに応えることができている。

支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1													0
区分2													0
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分4													0
区分5													0
区分6													0
その他	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
合計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84

支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
区分1													0	
区分2													0	
区分3	25	26	25	28	25	24	26	25	27	17	17	25	290	
区分4													0	
区分5													0	
区分6													0	
その他	180	186	180	186	185	180	178	180	184	183	168	186	2,176	
合計	205	212	205	214	210	204	204	205	211	200	185	211	2,466	
													月平均延べ利用者数	205.5
													年間稼働率	96.5%

地域サポートセンター オ・サーバ

【事業基本方針】

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。行政・地域包括支援センター・民生委員・各病院地域連携室との連携を図り地域の高齢者と家族の円滑な支援を行い地域に貢献する。

【目的】

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズ・残存能力を把握し、専門職として代弁できるように支援する。コロナ感染により看取り時病院・施設での家族・親族の面会ができない為、在宅での看取り希望が増えているような緊急・困難状況を勘案し在宅での本人支援の充実と家族の介護負担・精神的負担軽減を図る。

【具体的事業報告】

- 1.利用者に必要な新しい情報を提供し、様々なサービス事業所から自己選択を促し、CM、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図った。また、地域包括支援センター、民生委員等、利用者の地域で関わる人との連携を大切に、各地域民生委員との協議会に参加し地域の問題点を把握すると共に、協力して支援必要な高齢者を地域の目の中で支えていける体制づくりを常に心掛けた。
- 2.新規利用者の積極的に獲得すると共に困難事例などの扱いによる職員の負担を考慮しながら、集中減算に該当しないよう依頼事業所の選定をコンプライアンスに配慮しながら行い、同法人の紹介率の維持、向上を優先しながらも利用者・ご家族の意向確認しながら法人貢献を図り法人内の連携を図ることを主眼とし相談連携を深めた。
- 3.自己の知識、高められるよう事業所内外の研修に参加し、復命を行い各担当が情報を共有すると共に主管理者要件でもある任ケアマネの資格取得を目指し研修に参加し職員全員主任ケアマネの資格を取得した。
- 4.特定事業所としての機能を認識し、適正な運営を行えるよう他支援事業所と情報提供を行った。
- 5.居宅連絡会議 毎週（火曜日）8：30～
- 6.資格維持の為必要な必修主任ケアマネ又ケアマネの更新研修参加
- 7.医療や障害等の介護保険以外のサービス研修
- 8.BCPに関わる研修やマニュアル作成に参加し今後の支援活動に必要な事柄を学んだ

【令和6年度の状況・評価】

- 1.介護給付のケアマネジメントにおいては、時期的・季節的に入院・入所等が重なり終了となる方が多く、一時的に利用者急減がかなりあったが困難事例含め積極的に新規獲得活動を行い収益・利益確保を行った。
- 2.新規ケースについては職員の活動状況・負担を考えながら通年を通して出来るだけ断ることなく獲得を行った。一時的・緊急的な支援計画も積極的に受けた。基幹包括・各地域包括・病院の地域連携室からの依頼もあり、困難事例に積極的に取り組み解決することにより関係機関との信頼関係の強化ができた。
- 3.各担当が、コンプライアンスを遵守し、適切に業務を行うことで利用者又はそのご家族と信頼関係を形成でき、そこから知人や親類へ紹介していただくケースも増えた。
- 4, 最近特に女性ケアマネが対応できないセクハラ・DV等への対応必要な男性利用者への支援依頼が多くなってきている。出来るだけ対応しながら今後も利用者拡大につなげたいと考えている。その為にも男性ケアマネの配置が必要になると思われる

【令和6年度目標の達成状況】

- 1.利用者のために何が必要かを考え・検討した上法人一事業所としてのみならず山口市地域の関連事業所と連携し収益を確保し安定した利益を確保する
余命宣告を受け限られた余命の中で在宅で看取りたいというご家族と自宅で最期を迎えたいという本人の希望を叶えるため短期間の支援ではあるが積極的に受け入れた
- 2.介護保険改正がある為内容確認し事業に差し支えないよう改正点を事業所内で共有する
総合事業についての取り組みを検討し今後の対応を決める
介護保険改正の伴う行政や協会の研修にも積極的な参加し職員全員が共有できるようにした
- 3.包括支援センター・基幹包括・医師・専門職と連携を取り利用者の安全・安心な日常生活に寄与出来る様努力する
行政・医師会とも研修や交流会、連携を共有し関係を深める事が出来た

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	44	41	44	40	39	35	35	37	36	37	38	35	461
要介護 2	26	26	30	27	27	28	25	24	25	24	25	27	314
要介護 3	17	18	17	18	17	17	16	17	18	15	14	15	199
要介護 4	10	9	10	10	10	14	15	13	13	16	15	14	149
要介護 5	11	13	12	11	12	16	12	10	9	9	10	10	135
小 計	108	107	113	106	105	110	103	101	101	101	102	101	1,258
合 計	108	107	113	106	105	110	103	101	101	101	102	101	1,258
月平均利用者数												104.5	

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
多摩区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
浜田市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
品川区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

特別養護老人ホーム オ・サーバ aioi

【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指す。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

【目的】

人の為に走れ 優しさと笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！

- ・入居される方々に喜んでいただき、笑顔でありたいとお願いいたします。
- ・地域や家族はもちろん色々な方々の係りの中、穏やかに過ごしていただく。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	3名	1名	(1名)
女性	4名	6名	(3名)
合計	7名	7名	(4名)

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度：3.8

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合計
男性	0名	0名	2名	5名	1名	8名
女性	0名	0名	10名	5名	6名	21名
合計	0名	0名	12名	10名	7名	29名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：87.3歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	1名	3名	1名	3名	8名
女性	0名	0名	2名	8名	11名	21名
合計	0名	1名	5名	9名	14名	29名

【具体的事業報告】

(例) 1. 介護部門:河瀬UT) 入居者に笑顔を！ハートフルなケアを！明るいユニットを目指し、お一人お一人のケアを行った。

1. 介護部門:河瀬UT) 入居者に笑顔を！ハートフルなケアを！明るいユニットを目指し、入居者の尊厳を大切にしながらお一人お一人のケアを行った。

雲母UT) 個々の生活スタイルで、入居者さまの思いを大切に、安心感を持ってもらえるユニット作りを行った。

寛 UT) 入居者の尊厳を守り、言葉遣いに気をつけ、多くの笑顔が引き出せるように支援を行った。

2. 医務部門: 安心してその人らしい生活が送れるよう環境を提供した。異常の早期発見に努め、適切な判断を行った。医師、ご家族と連携をとり適切な対応をした。ご利用者さまとご家族の思いに寄り添い穏やかな最期が迎えられるよう援助した。ご利用者ご家族の要望に努めた。最後の時間を充実したものにできるよう、他部署との連携をとり援助した。

3. 栄養部門: 個別栄養ケア計画をもとに、多職種でモニタリングを実施し、高リスクの方への早期改善に取り組み、予防できたケースもあったが、急変した入居者への支援が追いつかず、結果が出せず反省するケースもあった。

4. 生活相談部門: ショートステイや他医療機関と密に連携し、退去があれば入居の段取りを進め、稼働率99.5%を達成することができた。また、加算関係も積極的に進め、機能訓練加算や生産性向上体制加算、療養食加算、口腔維持加算など、幅広い加算算定に取り組むことができた。

【令和6年度の状況・評価】

防災訓練を9月25日、11月16日、3月19日に実施。

1. 介護部門

河瀬UT) 6年度はコロナ感染もあったが、入居者も大きく体調を崩される事無く新年度を迎えることが出来た。今年度はご家族を交えた行事なども増やし、利用者様にもっと喜んでいただけるユニットにしていきたい。

雲母UT) R6年度は、時間に余裕がなく、入居者に待ってもらうこともあり、業務をこなすことで手一杯だった。入居者にも伝わっている気がするので、反省して、R7年度は業務ではなく、入居者優先にもう少し寄り添っていきたい。

寛 UT) R6年度は職員が不足する中、ぬくもりは少し欠けていたように思います。ただ、その人らしさは大切にしてきたつもりです。職員不足は続く中でも、業務に追われないよう

ぬくもりを大事にしていきたい。

2. 医務部門

- ・ 家族、ユニットと情報の連携不足があった為、ケアが行き届かない事があった。
- ・ 状態異常の早期発見が遅れる場面があった。
- ・ 専門職としての自覚、意識を更に強くもって仕事をしていかなければならない。
- ・ 水分摂取量が少ない、水分量の低下が見られる人。

紙面上に in、out が記入した方が見やすく早期発見できたのではないかな？

→その人の意識の問題で、記入してあっても気づかなければ意味が無くなってしまう。

- ・ 家族に入居者の状況をその都度伝えて、把握ができるように努めていかなければならない
状況の受け入れのペースはその家族それぞれなので、受け入れられるよう支援していく事が大切と思った。

3. 栄養部門

喫食率の低下から低栄養を回避できず、体調悪化、入院になったケースが有り、低栄養の方の早急な対策が必要と痛感した。個々人での喫食率 70% は達成できなかった。

4. 相談員部門

年間稼働率は 99.5% (入院含め) と目標を達成することができた。この要因は、ショートステイから特養入居へのスムーズな移行ができたことと、年間退去率も昨年同様安定期に入ったことが理由にある。医・栄・介との連携のおかげではあるが、「オ・サーバさんだからこそお願いしたい」というご家族もでてきている。公式 LINE、毎月の広報誌、ご家族へのお手紙の他に、新たに Instagram も開始し、地域だけではなく、地域の外へも開けた施設へと情報発信を行っている。今後は施設見学会や相談会などを行い、オ・サーバだけでなく、居宅介護支援事業所や小鯖地域を巻き込む形で交流や発信を行ってまいりたい。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 3	10	10	11	12	12	11	11	11	11	12	12	12	11.3
要介護 4	16	17	15	14	14	13	13	12	12	11	11	10	13.2
要介護 5	3	3	3	3	3	5	5	6	6	6	7	8	4.8
合計	29	30	29	29	29	29	29	29	29	29	30	30	29.3
男性	6	7	6	6	6	6	6	7	7	7	8	8	6.7
女性	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22.6

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 3	300	310	330	372	372	330	341	330	341	372	336	372	4,106
要介護 4	475	481	450	434	427	390	400	360	372	339	295	290	4,713
要介護 5	90	93	90	93	93	149	155	174	186	186	171	235	1,715
合計	865	884	870	899	892	869	896	864	899	897	802	897	10,534
月平均延べ利用者数													877.8
年間稼働率													99.5%
平均介護度													3.78

ショートステイ オ・サーバ aioi

【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえ、可能な限り居宅において、有する能力に応じて、自律した日常生活を営めるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行い、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持、家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行う。
3. 相当期間以上継続する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行う。
4. 地域との結びつきを重視し、県・市町・居宅介護支援事業者・その他居宅サービス事業者、保健・医療サービス及び福祉サービス提供者との連携に努める。

【目的】

人の為に走れ 優しさと笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！

- ・地域や家での寂しさを受け止め、楽しみのある生活を提供する。
- ・家族のストレスを軽減し家族関係をリフレッシュする。

【具体的事業報告】

1. 介護部門：ご本人（ご利用者さま）から「ありがとう」といっていただける対応に努め、安心して利用していただけるサービスを提供することができた。
2. 医務部門：安心してその人らしい生活が遅れるよう環境を提供した。異常の早期発見に努め、適切な判断を行った。医師、ご家族と連携をとり適切な対応をとった。
3. 栄養部門：美味しく喜ばれ、楽しみにされるメニューの提供を行った。
4. 生活相談部門：空床ができれば早期に情報発信を行った。特養入居待のご利用者の確保という立ち位置を把握しつつ、特養の入居が見込まれば、ショート双方のベッドコントロールの調整を行った。SNS や直接お話しできる機会を通じて、ご家族やケアマネージャーとの信頼関係に務めた。

【令和6年度の状況・評価】

防災訓練を9月25日、11月16日、3月19日に実施。

1. 介護部門：定期のご利用者さまが体調不良や施設入所等で様変わりしたが、ご家族、ご利用者様に安心・満足できるサービスを提供できた。
2. 医務部門：家族への連携は、ショートステイのスタッフと相談員が窓口なので、「ご家族との連携をとり」文言を「ご家族と連携をとってもらえるよう働きかけ」に変更する。

3. 栄養部門：ご利用者様の要望を聞き取り、ご当地グルメをスタートすることができ、話題作りもでき大変喜ばれている。喫食率70%も達成できた。

4. 生活相談部門：年間稼働率77.4%と昨年度(86.5%)よりも低下した。その要因としては、①5月6月のショートステイから特養入所などから、ロング・ショートが急遽終了し、次の利用希望者がほとんどいなかったこと。またこの時期は山口市街地のショートステイも空床が目立ったとのことであり、挽回できなかったこと、②新型コロナウイルスの影響を受け、11月に空床が発生したこと、その後の立て直しに日数を要したことが要因である。今後も定期利用希望者を呼びかけながら、地道に足や6年度にスタートできたインスタグラム等活用しながら、新規獲得、潜在ニーズ呼びかけを続けていきたい。

ショート介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	1		1	2	1	1	2	1	2	1	3	2	2.5
要支援 2	2	2	2	2	2	1	3	2	5	2	2	2	2.0
要介護 1	7	6	5	7	6	6	8	6	6	4	4	6	5.0
要介護 2	2	5	5	6	5	5	2	2	3	4	4	4	4.0
要介護 3	7	6	4	8	10	6	4	4	5	4	3	6	4.5
要介護 4	4	3	0	1	3	4	5	5	7	6	7	5	6.0
要介護 5	2	3	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0.5
合計	25	25	18	27	28	24	24	21	28	21	24	25	24.5
男性	14	10	4	7	9	7	10	8	9	9	9	9	9.0
女性	11	15	14	20	19	17	14	13	19	12	15	16	15.5

ショート介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	9	0	6	8	6	6	13	6	12	6	27	16	115
要支援 2	8	11	7	9	5	2	8	4	24	7	7	8	100
要介護 1	50	26	17	47	40	31	45	21	37	11	18	44	387
要介護 2	14	38	35	71	55	35	20	15	21	41	38	28	411
要介護 3	72	58	53	88	168	96	73	45	44	68	44	71	880
要介護 4	75	31	0	4	15	58	76	95	99	128	84	102	767
要介護 5	11	27	30	31	31	1	0	6	0	0	21	0	158
合計	239	191	148	258	320	229	235	192	237	261	239	269	2,818
月平均延べ利用者数													234.8
年間稼働率													77.2%
平均介護度													2.23

小規模多機能型居宅介護事業所 オ・サーバ aioi

【事業基本方針】

- ① 指定(介護予防)小規模多機能型居宅介護の提供にあたって、要介護者状態となった場合においても、心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限り住み慣れたその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、通いを中心として、利用者の容態や希望に応じて、随時訪問や宿泊を組み合わせ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練等を行う。更には利用者の心身機能の維持回復を図り、生活機能の維持又は向上を目指す。
- ② 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。
- ③ 利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は要介護状態になることの予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
- ④ 利用者の所在する市町村、居宅介護支援事業者、地域包括支援センター、他の地域密着型サービス事業者又は居宅サービス事業者、主治医、保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者、地域住民等との連携に努める。

【目的】

人の為に走れ ～自分らしい生活を続けるためのサポートを全力で行います！～

在宅生活を送る要介護（要支援）の高齢者に 24 時間 365 日の安心を感じられるサービスを提供することで、自宅での生活を可能な限り続けることができるように支援する。

【具体的事業報告】

- ・収支は年度を通して厳しい状況であった。
- ・登録利用者数が定員に達することはなく、目標としていた定員増（29 名）は実現しなかった。
- ・他サービスの移行により利用終了となったケース（4 件）のうち、3 件はひとつの会のサービス（特養、ケアハウス）に引き継ぐことができた。
- ・職員数の変動がほぼなく、マンパワーを安定的に確保できた。

【令和 6 年度の状況・評価】

- ・開設してから最も新規利用の登録数が少ない年度となった。
- ・利用終了となるケースも少なかったが、施設入居を希望するケースは全てひとつの会系列の施設を紹介できた。
- ・これまで利用者を紹介していただけっていた関係先（居宅、老健など）との関係をより強化するように動くべきだったが、活動量は不足していた。
- ・令和 7 年 3 月 19 日に防災訓練実施。

【令和 6 年度目標の達成状況】

1. 年内に定員を 29 名で申請できるように新規利用者を獲得する。

登録数は多い月で 23 名。問い合わせ件数を含めても定員増に踏み込めるタイミングはなく、定員 25 名のまま変更できなかった。

サ高住の新規入居も低迷しており、そこからの登録がなかったことも一因。

2. 送迎の効率化、密なサービスを提供するために、利用者の 9 割が小鯖、大内地区、サ高住からの受け入れになるように受け入れを調整する。

利用者の生活圏域はほぼ目標通りに一定の地域に絞られており、業務の効率化、利用者への臨機応変な対応等にとってメリットが感じられた。

一方でそれ以外の地域（平川、矢原、白石地区など）からの利用問い合わせに対応することができず、新規獲得にとっては障害となった。特に平川地区は高齢人口も多く、問い合わせも多いため、今後マンパワーとの兼ね合いも見ながら送迎可能地域として考えていく必要があるかもしれない。

3. 在宅生活の継続が困難で施設入居を希望されるケースには、ひとつの会系列の施設を紹介し、スムーズなサービス移行を支援する。紹介を 3 件以上行う。

施設入居を希望する家族に対して、ひとつの会系列の施設に入居することのメリットを説明して、目標通り 3 件の紹介を実現できた。

4. 「個別活動」「地域での役割を担う」この取り組みが事業所の特色として認知されるように、運営推進会議で毎回取り組みと実績を報告する。

運営推進会議で取り組み内容を説明したが、特に印象付けられるような目立った活動までは至っていない。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	13
要支援 2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	15
小 計	3	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	28
要介護 1	9	8	8	8	8	8	8	9	8	8	8	8	98
要介護 2	9	9	8	9	9	9	8	8	7	6	7	7	96
要介護 3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
要介護 4	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	15
要介護 5	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	17
小 計	20	21	20	21	20	19	19	20	18	17	18	17	230
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	23	23	22	23	22	21	21	22	21	19	21	20	258

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	69	70	69	71	71	68	71	69	110	27	32	34	761
要支援 2	101	9	8	9	5	9	8	8	9	78	72	80	396
小 計	170	79	77	80	76	77	79	77	119	105	104	114	1,157
要介護 1	350	297	258	266	281	260	266	290	287	277	254	278	3,364
要介護 2	376	442	413	438	453	433	423	343	304	297	289	387	4,598
要介護 3	0	71	68	71	67	0	0	0	0	0	0	0	277
要介護 4	78	139	190	145	93	90	93	90	93	93	84	0	1,188
要介護 5	90	93	91	96	93	163	304	168	150	154	89	85	1,576
小 計	894	###	###	###	987	946	###	891	834	821	716	750	11,003
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	###	###	###	###	###	###	###	968	953	926	820	864	12,160

月平均延べ利用者数	1,013.3
年間稼働率	222.1%
平均介護度	1.77

宿泊利用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	8	8	8	7	7	7	8	8	7	6	8	9	91.0
利用回数	173	195	163	167	186	172	196	173	151	152	132	183	2,043.0

月平均延べ利用者数	170.3
年間稼働率	56.0%

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0.3
体験利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

サービス付き高齢者住宅 オ・サーバ aioi

【事業基本方針】

高齢者にとって住みやすい住設備と、安否確認や生活相談などのサービスを組み合わせること
とで、本人、家族共に安心して生活できる環境を提供するように支援を実施する。

【目的】

人の為に走れ ～多様な生活の在り方を受け入れられる施設を目指して～

高齢者向け住宅として、一人ひとりの生活の在り方を尊重し、自分らしい暮らしを展開して
いける施設づくりを行う。

【入居者の状況報告】

要支援1 2名

要支援2 1名

1. 入・退居状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	0名	1名	(0名)
女性	1名	1名	(0名)
合計	1名	2名	(0名)

2. 介護度別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均介護度（令和7年3月31日現在）：2.2

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0名	2名	0名	0名	0名	2名
女性	1名	1名	0名	1名	0名	3名
合計	1名	3名	0名	1名	0名	5名

3. 年齢別入居者数（令和7年3月31日現在）

平均年齢：90.7歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	0名	0名	1名	2名	3名
女性	0名	0名	1名	0名	4名	5名
合計	0名	0名	1名	1名	6名	8名

【具体的事業報告】

- ・年度初めに新規入居者を迎えたが、一年を通して満室にならなかった。
- ・介護施設入居のために2名が退去したが、いずれもひとつの会系列の施設への入居だった。
- ・令和7年3月19日に防災訓練実施。

【令和6年度の状況・評価】

- ・介護の必要性が高い方の問い合わせについて、受け入れるかどうか迷うケースが多かった。サ高住という空間で安全に生活するには一定の自立度が必要であり、そのようなケースを探すことができなかった。

【令和6年度目標の達成状況】

- ・1年を通しての稼働率の目標を95%とする。

年間の平均稼働率は80%台で、目標を大きく下回った。

- ・軽介助が必要な入居者様向けの「生活支援パック」を新たなオプションサービスとして創設し、サ高住で長く暮らせるような仕組みを作る。

現入居者様にはまだニーズがなく、またオプションサービスを提供できるマンパワーの確保が難しいことから、今年度は形にはしていない。

軽介助を提供することで受け入れの間口は広がるが、過度な期待やトラブルのリスクもある。慎重な検討が必要。

- ・入居者様または家族からの紹介での入居を1件以上獲得する。

目標に挙げたようなケースはなかった。

近隣にあるデイケアの利用者からの利用問い合わせが数件あり、小鯖の介護サービスを利用できるメリットで今後入居を希望するケースが出る可能性を感じている。

- ・重度化した場合の次の受け入れ先として特別養護老人ホームオ・サーバ aioi またはひとつの会系列施設を勧め、移行するケースを昨年度以上に増やす。

退去者2名をいずれもひとつの会系列施設（特養オ・サーバ aioi、ケアハウス）に紹介できた。

サ高住介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 4	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8.0
男性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
女性	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0

サ高住介護度別月間延べ入居

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
要支援 2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護 1	60	47	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	411
要介護 2	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1,095
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 4	30	46	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	380
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	270	279	240	248	248	240	248	240	248	248	224	248	2,981
月平均延べ利用者数													248.4
年間稼働率													81.7%
平均介護度													1.5